

# 平成26年度学校評価自評書

学校名〔 京丹後市立峰山小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
		前年度の成果と課題	
評価項目		重 点 目 標	具 体 的 方 策
1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。		<p>○学力の充実・向上及び学習習慣の定着と教員の授業力の向上を目的とした集中取組期間を各学期に設定する等、教育活動の工夫・改善を進めることができた。</p>	
2 教育目標 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1) 意欲を持つて自ら学ぶ子を育成する。 (2) 思いやりのある子を育成する。 (3) 粘り強く挑戦する子を育成する。		<p>○食に関する指導充実事業における実践中心校としてPTAとも連携しながら実践研究を行い、食に関する指導を充実させることができた。</p> <p>△互いを尊重し、望ましい人間関係をはぐくむ学級経営を充実させる必要がある。</p>	
		<p>○言語活動を充実させる授業を工夫し学力の充実・向上を図る。</p> <p>○児童が安心して学べる学級経営を充実させる。</p> <p>○教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めること。</p> <p>○児童と教職員、児童相互の心のふれあいを大切にし、良好な人間関係の育成に努める。</p> <p>○指導方法の工夫・改善の基礎となる授業研究を進めること。</p>	
		<p>○学習に関する児童アンケートでは、授業はよくわかる(94%)、授業は楽しい(87%)、先生の話や友達の考えをしっかりと聞いている(89%)と肯定的回答の割合が高い。</p> <p>○家庭の協力を得ながら学力の充実・向上のための集中取組期間を各学期に設け、児童の学習意欲が向上した。</p> <p>○中核目標などの指導目標を明確にした授業を行い、児童にとつては学習のめあてのはつきりした授業となつた。</p> <p>△学習に関する児童アンケートでは、自分の意見や考えを発表している(77%)と、積極的な学習態度の形成には弱さがある。</p>	
教育課程 学習指導		<p>○学習意欲を高める魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。</p> <p>○教材研究に十分な時間をかけ、指導目標と学習のめあてを明確にする。</p> <p>○家庭学習の習慣を確立するため、家庭学習の手引きを活用する。</p> <p>○教員の授業実践力を高め、基礎学力の充実・向上、学習習慣の定着を図るために、保護者の協力も得ながら学校あげて集中的に取り組む。</p>	
		<p>○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童が自己決定をしていく場を増やした指導を行う。</p> <p>○豊かな人間性をはぐくむため、児童会活動をとおして異年齢活動やチーム活動を活発にする。</p> <p>○学校不適応や不登校を起こさせないため、早期発見、早期対応と情報共有に努める。</p>	
生徒指導		<p>○自ら考え方判断して生活上の諸問題を解決する力を培うとともに、人を思いやり礼儀を重んじる心をはぐくむ。</p>	
		<p>○生活に関する児童アンケートでは、学校の決まりを守っている(93%)、いじめはどんな理由があつてもいけない(98%)と肯定的回答の割合が高い。</p> <p>△生活に関する児童アンケートでは、トラブルが起きたときには話し合いで解決している(84%)と、トラブルの解決方法には課題がある。</p>	

<p><b>健康（体育）・安全</b></p> <p>○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活习惯を確立する。</p>	<p>○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。</p> <p>○家庭との連携を図りながら基本的な生活習慣を確立するための点検活動を行い、生活を改善する取組を行う。</p>	<p>○体力づくりの学級での取組目標を設定することにより目標を持つて体力づくりに取り組む。</p> <p>○PTAや校区安全ボランティアの会との連携により登下校の見守り活動を継続的に行うことができる。</p> <p>△早寝早起きには課題があり家庭と連携した取組が必要である。</p>	<p>○合唱祭への参加、部活動体験、中学校の先生による授業体験、中学校の教室を借りての授業体験等の体験活動や峰山学園の他の小学校との交流活動を行うことで、6年生児童の中学校生活への期待が大きくふくらんだ。</p> <p>○中学校での数学につながる系統性を踏まえた指導を行うことにより、学習に関する児童アンケートでは、算数の力がついている（92%）と、肯定的回答の割合が高い。</p> <p>△小中一貫教育モデルカリキュラムの検証を行い、言語活動の充実等、指導方法の工夫・改善を進める。</p>	<p>○中学校での関数領域につながる算数の学習内容について、小中一貫教育カリキュラム算数・数学編を活用し系統性を踏まえた授業づくりを行う。</p> <p>○中学校の授業や生活を体験する取組や峰山学園の他の小学校と交流する取組を行う。</p> <p>○小中連携加配による体育の授業をとおして、中学校との情報共有に努める。</p>	<p>○保護者との懇談会を定期的に行い、特別な支援を必要とする児童のニーズに応じた指導を進めることができた。</p> <p>○得意分野を伸ばす指導を取り入れることで学習意欲の向上が見られた。</p> <p>△どの学級にも特別な支援を必要とする児童が在籍していることを前提に授業を行い、どの子にもわかりやすい指導方法を開発する。</p>	<p>○担任各自が年間3回の公開授業を行ってお互いの授業を参観できる機会を十分確保できている。</p> <p>△峰山学園の取組とリンクさせ、自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業のあり方について実践的に研修する。</p>
<p><b>小中一貫教育への取組</b></p> <p>○保・幼、小、中学校の一層の連携をとおして、小学校への入学や中学校への進学の不安を限りなく減らす。</p> <p>○小中一貫教育カリキュラム算数・数学編（峰山中学校区小中一貫教育推進協議会カリキュラム部会編）を検証する。</p>	<p>○通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている児童に対して落ち着いた学習環境を整えるとともに、特性に配慮した指導を進めること。</p> <p>○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応応するため、保護者との信頼関係を築きながら、個別の指導計画や個別の教育支援計画を改善していく。</p>	<p>○一人一人の教育的ニーズに応じたすべての子どもを支援する教育を推進する。</p>	<p>○児童が自らの考えをよりよいものにするための意見交換など、学習活動が活発になるコミュニケーションの方法を研修し授業に活用する。</p> <p>○授業研究を充実させるための理論研修の回数を増やす。</p>	<p>○児童が自らの考えをよりよいものにするための意見交換など、学習活動が活発になるコミュニケーションの方法を研修し授業に活用する。</p> <p>○授業研究を充実させさせたための理論研修の回数を増やす。</p>	<p>○担任各自が年間3回の公開授業を行ってお互いの授業を参観できる機会を十分確保できている。</p> <p>△峰山学園の取組とリンクさせ、自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業のあり方について実践的に研修する。</p>	<p>○質の高い学力を身に付けさせるとともに学習することができないと感じる児童を育成するため、指導方法の工夫・改善・開発に努める。</p> <p>2 良好的な人間関係を育成するため児童と教職員及び児童相互の心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。</p> <p>3 特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援を充実させるとともに、どの学級も刺激に配慮した落ち着いた学習環境を整える。</p> <p>4 峰山学園小中一貫教育の経営方針に従い、小中一貫教育の理念を教育活動において具体化していく。</p>
<p><b>研修(品質向上の取組)</b></p>	<p>○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。</p>	<p>○質の高い学力を身に付けさせるとともに学習することができないと感じる児童を育成するため、指導方法の工夫・改善・開発に努める。</p>	<p>1 良好的な人間関係を育成するため児童と教職員及び児童相互の心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。</p> <p>2 特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援を充実させるとともに、どの学級も刺激に配慮した落ち着いた学習環境を整える。</p> <p>3 峰山学園小中一貫教育の経営方針に従い、小中一貫教育の理念を教育活動において具体化していく。</p>	<p>○児童が自らの考えをよりよいものにするための意見交換など、学習活動が活発になるコミュニケーションの方法を研修し授業に活用する。</p> <p>○授業研究を充実させたための理論研修の回数を増やす。</p>	<p>○担任各自が年間3回の公開授業を行ってお互いの授業を参観できる機会を十分確保できている。</p> <p>△峰山学園の取組とリンクさせ、自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業のあり方について実践的に研修する。</p>	<p>○質の高い学力を身に付けさせるとともに学習することができないと感じる児童を育成するため、指導方法の工夫・改善・開発に努める。</p> <p>2 良好的な人間関係を育成するため児童と教職員及び児童相互の心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。</p> <p>3 特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援を充実させるとともに、どの学級も刺激に配慮した落ち着いた学習環境を整える。</p> <p>4 峰山学園小中一貫教育の経営方針に従い、小中一貫教育の理念を教育活動において具体化していく。</p>

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉原小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園	【児童】 〇研究授業での協議を生かして、ねらしいが明確でわかりやすい授業を日々の授業の中で実践され、授業改善が図られた。 〇生徒指導部のねらいを踏まえた児童会活動(よさを認め合う活動)等により、自己肯定感の高まりが見られた。	・研究推進部が中心となつて算数を研究の柱とし、ねらしいが明確で児童がわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。	○模擬授業を取り入れた事前研、充実した事後研ができ、ねらいが明確でわかりやすい授業の形態ができるようになつた。	・基礎基本の定着と個に応じた指導のための授業及び取組の充実・改善	・基礎基本の定着と個に応じた指導のための授業及び取組の充実・改善
2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】	〇本年度の重点の意識化により、学級経営、分掌経営等に重点を意識した目標及び具体的な方策が作成され、実践が進められた。	・組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着と発展学習の進展を図る。	○家庭学習ステップアップ月間の毎学期実施及び全校補習等による基礎学力の確かな定着と自由研究発表会等の取組による活用する力の充実が図られた。	・生徒を要する児童への指導の充実	・生徒を要する児童への指導の充実
3 保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】	〇児童欠席者数の減少、保護者の授業参観、行事等への参加増、感想等から、児童・保護者の学校への意識が好転した。 △小中一貫教育の趣旨とその重要性が全担任の意識にまで十分に浸透させなかつた部分の改善策が必要である。	・マナビータイム、放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、個に応じた指導支援を進める。 ・知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成する授業と学習意欲を高める授業の視点として意識しながら改善を進める。	○府、全国の診断テスト、また各学年まとめテスト(DRT)において国算とも全ての学年で全国平均を上回った。 △若く経験年数の少ない中、じっくりと授業研究・教材研究ができる環境を作り、授業力の向上、さらには人材育成のための指導の充実に繋げる努力をしたい。	・道徳教育・人権教育の指導の充実	・道徳教育・人権教育の指導の充実
教育課程 学習指導	・授業研究を中心に、ねらしいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 ・組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着と発展学習の進展を図る。	・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えことで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○学校・学級通信での地道な啓発、行事等での組織的な動きを通じて、児童の良さを積極的に伝えることができた。 ○児童・保護者アンケートでも数値目標を大きく上回る結果が得られ、児童には自己肯定感の高まりを感じている。	・特別活動、学級活動、道徳の時間等を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかかわりにすること」2-(3)についての指導を重視する。	・特別活動、学級活動、道徳の時間等を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかかわりにすること」2-(3)についての指導を重視する。
生徒指導	・良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 ・発達段階に応じた「友だちと仲よくし、助け合う」の気持ちを育成する指導を進める。	・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えことで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○人権甸間を核として、「友だちのよい所を見つける」とを中心にして、児童会活動でも、ねらいに沿った動きを作ることができた。		

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、児童への指導と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発のため、家庭学習・読書活動・個に応じた指導の推進</li> <li>・困難なことにもねばり強く挑戦していくこととする態度を育成する。</li> <li>・学校を休まない強い体を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、児童への指導と連動し、心身の健康への意欲を高める。</li> <li>・学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1-(2)についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保、中学校との円滑な接続と本校重点の充実のため小中一貫教育を活用して研修、取組のねらいを明確にして充実を図る。また地域と一緒にとなつた取組を計画的に実施することと、PTA・地域との積極的な連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進めるとともに、学校再配置について準備を進めることで、PTA・地域の関係機関等との連携をより一層強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりや学級通信、HP 等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。また、保護者・地域との情報共有によって、学校再配置に向けて準備を丁寧に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談部を中心とした支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方策を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会・マラソン大会・縄跳び大会等の大会に向けての取組や、校内ミニ観伝大会・縄跳びチャレンジ等の児童会活動と連動し、心身の健康への意識と持続して取り組む意欲が高まった。</li> <li>○養護教諭による健康新たよりやミニ保健指導等を通して意識喚起と担任指導により、健康に関する意識が高まった。</li> <li>○行事に向けけて計画的に学校体制で指導することで、ねばり強く取り組もうとする態度が確実についた。</li> <li>○小中一貫教育が本格実施となり、各校の同学年の担任と交流する機会が増え、教職員の意識が高まった。</li> <li>○各種アンケートの結果も全て良好なものとなつた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観、学校行事等については多くの保護者が参加し、アンケートで肯定的な意見をもらつた。</li> <li>○HP の更新をできる限り実施した。その結果アクセス数が増え7万5千回を超えた。学校の肯定的な様子や重点としている取組について保護者等に懇談会等で丁寧に説明し、円滑に進めることができた。</li> <li>○幼保との確実な連携により入学する要配慮児童への家庭連携した支援が進み、困難な部分が広がることなく指導が進んだ。今後も個に応じた対応に努める必要がある。</li> <li>○教員・保護者アンケートとも、設定した数値目標を上回るなど、学校の支援に対する理解は広がってきてている。</li> </ul>
次年度に向けた改善的方向性	1 本年度重点目標の学校評価を踏まえ、より実態に合った充実の視点での次年度重点目標の設定と週・月・学期での進行管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 峰山学園での連携強化及び家庭とのさらなる連携強化による学力の充実のため、家庭学習・読書活動・個に応じた指導の推進</li> <li>(2) 活用する力の育成、学習意欲向上のための組織的な取組の積極的実施</li> <li>(3) ミュニケーション能力の育成学校再配置・交流学習の積極的な実施</li> </ul>							
2 重点目標を踏まえた学級経営方針・具体的方策の作成と成果の全体での確実な確認によって教員の資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学期ごとの個々への評価と改善の道筋への指導助言</li> <li>(2) ぶれない三者による教職員との信頼関係のさらなる構築</li> </ul>								

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名 京丹後市立五箇小学校

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
教育課程 学習指導	1 わかる授業・「できる授業」を計画的に進め 2 自分の考え方や思いを発表する場を全教育活動の中に設定し、思考力・表現力の育成を図る。 3 家庭との連携を深め、家庭学習の充実、読書習慣の形成に努める。	○ 挑戦する心を持ち、粘り強く取り組もうとする意欲を高めることができた。 ○ 漢字・計算力を高める取組を継続的に行うことにより、児童の意欲を高めると共に漢字・計算力の向上を図ることができた。 △ 引き続き、自分の思いや考え方表現する力を高めることで、児童を育成する。 △ 家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組を進める。	○ 挑戦する心を持ち、粘り強く取り組もうとする意欲を高めることができた。 ○ 漢字・計算力を高める取組を継続的に行うことにより、児童の意欲を高めると共に漢字・計算力の向上を図ることができた。 △ 挑戦する心を持ち、粘り強く努力できる児童を育成する。	○ ユニバーサルデザインの観点を取り入れた授業づくりに取り組むことにより、よりねらいを明確にした授業を開発することができた。 ○ 朝会や全校集会の場で、年度を通じて計画的に学年発表を取り組み、児童の発表力・表現力を高めることができた。 △ 各学期に家庭学習がんばり週間を設け、取組を進めることで一定の成果を上げることができたが、家庭での読書習慣の形成については引き続き家庭と連携した取組が必要である。	
生徒指導	1 児童の内面理解に努め、学級経営の充実を図る。 2 児童の良さを伝え合い、互いに認め合うことで、児童個々の自己肯定感を高める。 3 異年齢集団による活動を工夫し、互いに思いやる心を育てる。	1 日々の児童の実態把握に努めると共に、特別支援教育部を定例化して児童への細やかな対応に努める。 2 自己肯定感を高める取組を生徒指導や特別活動の取組の中位置付け、継続的に進めれる。 3 行事や取組では、高学年にはリーダーとしての役割を持たせ、他学年と積極的に関わる場を設定する。	○ 特別支援教育部を定例化することにより、児童の実態を細かに把握し、その対応について協議することができた。 ○ 生徒指導部・特別活動部と児童会が連携し「ハッピー・レター」の取組など、児童個々の自己肯定感を高めていくための取組を進めることができた。 ○ 高学年がリーダーシップを発揮し、他学年の指導や支援を積極的に行うことができた。	△ 定期的に生活点検を実施し、児童・保護者の意識を高めることでできたが、更に粘り強い取組が必要である。 ○ 朝マラソン、なわとび練習など年度を通して計画的に体力作りを進め、基礎体力の向上が図れた。	
健康(体育)・安全	1 家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。 2 年間を通して体力づくりの取組を進め、体力・持久力の育成を図る。	1 生活点検の取組を行ない啓発を進める。 2 朝マラソン・なわとび練習など、年度を通して計画的に体力づくりを進める。			

小中一貫 教育への 取組	1 峰山学園の教育目標に迫るた め、本校の児童の実態をもと に具体的な達成目標を設定し、全教育活動の指針とする。	1 峰山学園の教育目標に迫るた め、本校の児童の実態をもと に具体的な達成目標を設定し、全教育活動の指針とする。	○ 本校の今年度の達成目標を設定し、その実現に向けて教育活動を展開することにより、峰山学園の教育目標に一定迫ることができた。
	2 9年間を見通した一貫性・系 統性のある指導を進める。	2 指導法の研究、児童生徒理解等、小中の連携を密にしながら一貫性・系統性のある指導を進めます。	○ 特に、中学校へ直結する高学年における指導については、小中の連携を密にして取り組むことができた。
	3 峰山学園の取組を積極的に保 護者・地域に発信する。	3 ホームページや学校便り、学級通信を活用した積極的な情 報発信を行う。	△ ホームページや学校便り、学級通信での情報発信が必要である。 △ 今後さらに積極的な情報発信が必要である。
研修（資 質向上の 取組）	1 職員の指導力向上に向けた研 修を行ない積極的に進める。  2 個に応じた指導の推進と指導 法についての研修を進める。  3 小中一貫教育を見据え、義務 教育9年間の連續した学びと育 ちをめざした研修を進める。	1 授業研究・公開授業を推進し、組織的に授業力向上の取組 を進める。  2 個々の児童の課題に応じた指導の在り方にについて、職員相 互の指導法の交流、外部講師を招聘した研修を行う。  3 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組 のあり方について研修を進める。	○ 事前・事後の研究を充実させ授業研究会を実施することに より、個々の教職員の授業力を高めることができた。 ○ 職員相互の指導法の交流、外部講師を招聘した研修を行う ことにより職員の指導力を高めることができた。 ○ 峰山学園のめざす児童像を踏まえた今年年度の達成目標を 設定し、その達成に向けて取組を展開することができた。 △ 汽水域における指導法など更に研究が必要である。
開かれた 学校づく り	1 丁寧で分かりやすい双方向の 情報発信を行う。  2 PTA・地域の関係諸機関等 と連携した取組を強化する。  3 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的 な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。  4 学校再配置に關わって、保護 者・地域との情報の共有・双方 向での発信を行う。	1 学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や 様子を積極的に発信する。  2 PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を 得る。  3 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的 な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。  4 学校再配置に關わって、保護 者・地域との情報の共有を図り、よりスマーズに準備を進めていく。 △ 情報の共有を図り、よりスマーズに準備を進めていく。	○ 学校便り、学級通信、またホームページのこまめな更新によ り学校の取組や様子を発信することができた。 ○ PTA、公民館、老人会等との連携を図りながら教育活動 を進めることができた。 ○ 地域の方々による行事・取組への支援、学習補習、そろば ん、ミシン等、外部人材の積極的な活用を進め、子どもたち の学習意欲を高めることができた。 ○ 再配置に關わる保護者へのアンケートの実施、経過説明 会、PTA規約に關わるPTAとの学習会等、再配置に向け ての、保護者・地域との情報の共有・双方向での発信を行 うことができた。
次年度に 向けた改 善の方向 性			「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」の実現に向け、峰山学園の経営方針に基づいて取組の具体化と焦点化を行う。 1 「できる・わかる授業」を追求し、教科の基礎・基本を身に付けるとともに学力の向上を図る。 2 一人一人の教員が、安定した学級経営と授業力の向上を目指した研修を行う。 3 家庭と連携して生活習慣を確立させ、家庭学習の充実及び家庭での読書習慣の形成に努める。 4 積極的な情報発信を行い、保護者・PTA・地域と連携しながら教育活動の質を高める。 5 再配置前年度に当たり、保護者・地域の方々が「一緒にになって良かった」と思える学校づくりに向け、計画的に準備を進める。

## 平成26年度学校評価自評報告

学校名 [京丹後市立新山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 案		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程指導 学習活動	1児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、指導方法を改善することを目的とした授業改善指導を行ふ。 2自ら課題を見つける力、豊かな表現力、豊かな人間関係の育成に努める。 3豊かな人間関係を背景に将来に渡つて、自ら学び総合的に育成する。	(1)学力診断テストや全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改重点教科として、算数科で自分の考え方を深め伝える研究を進め、授業活動を充実(書くこと・読むこと・読書)を図る。朝読書・屋ドリル時間・全校補習の充実を図るために教育課程編成の工夫を行うとともに、組織的指導体制を整える。 (2)算数の研究活動で言語活動の充実(書くこと・読むこと・読書)を図る。朝読書・屋ドリル時間・全校補習の充実を図るために教育課程編成の工夫を行ふ。 (3)全教科を用いて、算数科で自分の考え方を深め伝える研究活動を充実(書くこと・読むこと・読書)を図る。朝読書・屋ドリル時間・全校補習の充実を図るために教育課程編成の工夫を行ふ。 (4)定期的に効果測定を行い、早期回復指導を取り組む。 (5)様々な方法で家庭との連携を行ふ。 課題の改善に取り組む。		○学力診断テスト等の結果分析や学期・単元ごとの基礎的な学習内容の定着状況をふまえ、早期に回復指導を行ひ、基礎学力の定着を図ることができた。 ○算数的活動に焦点を当てた授業研究を通して、確かな学びを通じる授業づくりを推進することができた。 ○授業も含めた指導の場全体で学力課題克服のための指導について実践が進んだ。 △伝え表表現する力を向上させ、友達と共に学び合う学習態度を育成するための授業改善を進める。 △言語活動のあらゆる場面に位置付けて、言語活動の充実を図る。 △家庭との連携を更に進め、家庭学習の充実を図る。	
生徒指導	1人権尊重、規範意識の醸成 2自らの課題を解決する意欲	(1)生徒指導の3機能を生かした学級経営を通して、子どもたちを適切に学習習慣で育てるため、児童が自己を土台に問題を解決する態度を指導を行う。 (2)主として、問題を解決する場を充実させた教訓を学級指導に生かすことを目とし、問題事象への対応全体を通じて、児童の個々の能力・態度の伸長と社会的資質・よき良いい人格の形成を促す。 (3)学級毎に実施する学習集団の充実を図る。 (4)学級の安定を図るための事例研究(学習集団の育成・人間		○自己有用感を育むい学級活動や異年齢活動に取り組み、適切な繋がりを持った人間関係の育成が進んだ。 ○生徒指導部のセンター機能の発揮により、問題事象への対応から得た教訓を学級指導に生かすことが出来た。 △生徒指導部のセンター機能を更に強化し、予防的な生徒	

生徒指導	と実践力を育成する。また、「いじめ」「不登校」「登下校」等の諸問題について早期発見・見・早期教育相談活動を行ふ充実を図る。		(5) 関係づくり・対応的活動)に取り組む。 （6）問題行動事象に対する対応、未然防止、日常的な教育「心の健康」の教育」の充実を図る。	<p>指導の推進を図る。  △いじめ防止、事故・怪我の減少、規範意識の醸成等の指導力の向上を目指した実践的研究の充実を図る。  △児童の自己決定の場を多く設定し、学級・児童会における自治的な活動を充実させる。  △生徒との連携の確立・心の教育を行ふ。  △安全な登下校・家庭との連携の強化を図る。</p>
	健康（体育・安全）		(1) 校内事故の防止指導・登下校の安全指導の充実を図る。 (2) 教科もも教育課程外も指導を充実させ、児童の基礎体力の向上を図る。 (3) 年間を通して、計画的に食育・保健指導を取り組む。 (4) より良い施設点検・管理体制・心・命の教育、薬物乱用防止教育を通じて、児童の充実を図る。 (5) 施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 (6) 様々な危機状況を想定し実践的な訓練に取り組む。 (7) 登下校の安全確保のため地域・PTAと連携する。	<p>△年間通して体力作りに取り組み、体力の向上を図った。  △PTAと連携して生活習慣を見直す取組を行い、保護者の意識の変革も感じられるようになつた。  △PTA・地域と連携した登下校指導により、通学上の安全について課題を共有することが出来た。  △体力づくりの取組をきっかけに継続して取り組もうとする意識を醸成させる。  △薬物乱用防止教育の指導を更に推進する。</p>
	小中一貫教育への取組		(1) I期の取組を中心にして(中学1年目として)コミュニケーション能力に力をこめてコミュニケーション能力を育成する。 (2) II期をスムーズに迎えさせるI期での活動について研究を進める。	<p>○小中一貫教育の取組を通して、中1ギャップの軽減が図られる見通しを持てた。  ○小学校入学時の課題解決のカリキュラムが出来た。  △指導方法の改善等学園挙げて取り組む課題を整理し、具体的に推進する。</p>
	研修(品質向上の取組)		(1) 教科指導・生徒指導力の向上を図るために理論的・実践的研修を充実させる。 (2) 教科指導力、生徒指導力の向上、対応力向上を図る。 (3) 小中一貫教育に係る共同研究を充実させる。	<p>○重点研究(算数科)を中心とした指導の場を通して学力向上を目標とする具体的なプランが出来た。  ○学年相応の学級活動にについて児童の認識を踏まえた実践について考察することが出来た。  △学習指導・生徒指導での系統性について整理する。</p>
	特別支援教育		(1) 特別支援教育コーディネーターの機能を生かした児童支援に係る実践力の向上を図る。 (2) 正しい発達障害についての理解、発達障害児童の指導を行なうための理論的研修に取り組む。 (3) 保護者・関係機関と連携を図りながら、個別な配慮が必要な児童への組織的支援を行う。 (4) 障害のある人を正しく理解する理解教育に取り組む。	<p>○児童個々の特性に応じた支援について実践が進んだ。  ○関係機関・保護者と連携し、児童理解が進んだ。  △コーディネーターの活動を更に充実させる。  △保護者・地域の特別支援教育に対する正しい理解を進める。</p>
	次年度に向けた改善的方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題を克服するために、さらに学校運営システムの整備(運営会議、企画委員会、分掌部会の計画的運営と各会議間の連携の工夫)を図り、組織的・効率的・機能的なR-P-D-C-Aマネジメントによる学校運営の質を高める。</li> <li>・算数科を重点とした授業改善に取り組み、「樂しく、実感を伴つた学習の創造」「『分かりやすく伝える』力の習得「学び合う集団づくり」を進める。</li> <li>・学級活動・児童会活動等を通して、生活上の諸問題を解決する力を培う実践を進める。</li> <li>・小中一貫教育を更に推進する。</li> <li>・家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上と地域の教育力の活用を図る。</li> </ul>	

# 平成26年度学校評価自評報告

学校名「京丹後市立丹波小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
教育課程 学習指導	1 一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	○ 全校的に落ち着いた学習態度で授業改善を図ることができた。 ○ 組織的な生徒指導の取組が進み、規範意識が向上してきた。 ○ 基本的な生活習慣の確立や読書の取組等、保護者との連携を大切にした取組を進めることができた。 △ 小中一貫教育実施校としてねらいを明確にしながら教育課程を推進していくなければならない。	1 研究推進委員会を中心に一人1回以上の研究授業・公開授業を行い、ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を計画的に進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成する授業と学習意欲を高める授業を、研究授業の視点として意識しながら授業充実を進める。	○ 一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、本時の目標が明確で「わかる」授業を推進する根柢で研究し、児童に本時の学習の見通しを持たせる授業ができきた。 ○ 保護者アンケート・児童アンケートで約90%が、国算の基礎・基本の定着ができるいると回答が得られた。 ○ 漢字検定61名(92%)・数学検定27名(40%)が挑戦することができている。 ○ 各学年ともDRT(国算)において、平均8割を目指して取り組むことができた。 △ 今後も授業研究を通して活用する力を身に付けさせ、A肩をつくる取組を進めることを図つたい。	1 確かな学力の育成自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進する。 2 コミュニケーション能力の育成自己肯定感を高め、「わかる」「できる」生活を推進する。
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え入れる活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 2 発達段階に応じた「思ひやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、異年齢集団活動の中で、伝え合う場を設定することで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 2 道徳の時間を中心にして道徳活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかかわりにすること」2-(2)について指導を重視する。	1 生徒指導部・特別活動部が連携して月目標を設定し、教職員が一致した指導したり、よさを全校集会等で評価したりすることができます。 ○ 学校便り・学級通信を通して、取組の様子やねらいを説明しながら、児童のよさを積極的に紹介することができます。 ○ 保護者アンケート・児童アンケートで約90%が、よさを認め合い伝え合っているとの回答が得られた。 △ 全ての児童が自己肯定感を持つよう、今後も取組を進めていきたい。		

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図つたり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作成する。 2 困難なことうととする態度を育成している。	1 期間を決め、朝ランニング・朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を目指したり、PTAと連携して、休まず学校に登校できる意欲を高めることで、基本的な生活習慣の確めを目標とする。「（2）についての指導を重視し、特に「自分自身の身上に関するこどもの目指すする態度を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に粘り強く挑戦する態度を高める。」	○ 朝ランニング等で体力の向上を図り、駅伝大会では、準優勝の結果を得ることができた。 ○ 学期に1回定期的に元気貯金を実施し、児童・保護者での意識を向上させた。また、保護者の「ほめる言葉」で、早寝の達成率が伸びた。 ○ 保護者アンケート・児童アンケートで約90%が、最後まで粘り強くやり遂げようとしているとの回答が得られた。 △ 生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後も家庭と連携して取組を進めていきたい。
	1 保育所・幼稚園・子ども園・中学校との取組により、一貫した教育を強化する。	1 峰山学園教育目標の実現に向けて、保育所・幼稚園・子ども園・中学校との研修、取組のねらいを明確にし、一貫教育を推進する。	○ 算数科の研究を峰山学園の研究と一致させて取り組むことで、ねらいが明確になり、全教職員で実践することができた。 ○ 「一貫した教育を強化している」の保護者アンケート・教職員アンケートで、概ねも含め、100%の回答が得られた。
小中一貫教育への取組	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 教育支援部会（教育相談部+特別支援校内委員会）を中心とした支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にし、担任を中心とした指導を進めよう。	○ 教育支援部会を定期的に開催し、個のニーズに応じた指導方法を検討することができる。 ○ 年間を通して保護者と懇談することができる。 ○ 指導を取り入れた教育支援計画を作成することができる。
特別支援教育	1 丁寧で分かりやすい双方方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進めよう。 2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一緒につながった取組を計画的に実施する。	○ 授業公開・学校公開・各種たよりの発行・HPの更新を通じて、学校の取組を発信できたりして、保護者との連携が一層進んだ。保護者アンケートでもほぼ90%が連携できていると回答があつた。ホームページのアクセス数一日50～100(1月27日現在(69,200)) ○ 茶道・将棋・囲碁・書道・百人一首等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用した地域と一緒につながった学習を行うことができた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級通信、ホームページ等で、学校の見えて、児童なりの育成」の設定によって表現できることとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を行なう。 2 活用する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童に自分の意見を出し、児童の学力の安定を図る。 3 一人一人が生徒指導の三機能を生かした授業実践を行う、評価の視点・方法を明らかにする。 4 学校評価から教育実践を取り組むことと共に、家庭と連携し、生活習慣を確立させることで、家庭経営を行なう。	峰山学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行なってきた。今後、より児童の実態と合わせた取組を行なう。 1児童に対する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童に自分の意見を出し、児童の学力の安定を図る。 2活用する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童に自分の意見を出し、児童の学力の安定を図る。 3一人一人が生徒指導の三機能を生かした授業実践を行う、評価の視点・方法を明らかにする。 4学校評価から教育実践を取り組むことと共に、家庭と連携し、生活習慣を確立させることで、家庭経営を行なう。
次年度に向けた改善的方向性			峰山学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行なってきた。今後、より児童の実態と合わせた取組を行なう。 1児童に対する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童に自分の意見を出し、児童の学力の安定を図る。 2活用する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童に自分の意見を出し、児童の学力の安定を図る。 3一人一人が生徒指導の三機能を生かした授業実践を行う、評価の視点・方法を明らかにする。 4学校評価から教育実践を取り組むことと共に、家庭と連携し、生活習慣を確立させることで、家庭経営を行なう。

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が意欲的に取り組める目標を示し、達成感を味わいながら基礎学力の定着や体力の向上に取り組むことができた。</li> <li>○教師の授業力の改善によって意識化が図られた。</li> <li>△基礎学力のさらなる充実、学習意欲の向上に向けた取組を継続していく。</li> <li>△コミュニケーション能力、言語能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着を図り、さらに思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 &lt;確かな学力の育成&gt;</li> <li>・生徒指導の三機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係の育成 &lt;コミュニケーション能力の育成&gt;</li> <li>・家庭や地域と協働する学校づくりの推進</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	児童一人一人に基礎・基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。</li> <li>・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、ことばの力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。</li> <li>・学習規律（ペル着、ペル準）の定着に向けて取り組む。</li> <li>・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による、言語に着目した取組を進めること。</li> <li>・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習習慣の定着等を目指して「がんばり週間」を設定して取り組み、取組期間中は意識も高まり成果を上げることができた。</li> <li>○算数科を重点教科として研究に取り組めた。学年の系統性を意識した指導について深めることができた。</li> <li>○図書室の整備や読み聞かせ等の読書活動を充実させることができ、図書室の利用や本の貸し出し数も増えてきた。</li> <li>△家庭と連携した取組を計画的に進めしていくことで学力の向上を図っていく必要がある。</li> <li>△放課後補習等、学力向上への手立てを充実させていく。</li> </ul>
生徒指導	安心と安定のある学級経営の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三機能（自己存在感、共感的理解、自己決定）を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。</li> <li>・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを進めること。</li> <li>・児童の日常的な状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に努める。</li> <li>・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や取組に各学級が創意工夫して取り組むことができ、教師からの多くの肯定的な評価を行うことができた。</li> <li>○日々の児童の把握を丁寧に行うことができ、登校しづらい傾向の児童への素早い対応ができた。長期欠席ゼロ、いじめや暴力事象も報告すべき事象ゼロを維持している。</li> <li>△校内での定期的に実態交流をする場を設定することで迅速な状況把握からへの対応へとつなげていく。</li> <li>△人権教育とも連動し、生徒指導の三機能を意識した教育活動を進めていく。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気で規則正しい生活ができる児童を育成する。</li> <li>基本的な生活習慣の確立に向けた取組をする。</li> <li>生活点検の実施</li> <li>・長岡っ子安全ボランティアと連携した取組をする。</li> <li>ニコニコカーによる見回り、毎月の登校指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の体力づくりを年間を通して計画的に実施する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>朝マラソン、朝縄跳び</li> </ul> </li> <li>・長岡っ子安全ボランティアと連携した取組をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○春から秋にかけて朝マラソン、冬は縄跳びと一年を通して体力作りに取り組むことができた。</li> <li>○長岡安全ボランティアの会との対面式を行い安全意識の高まりと見守っていただいているという感謝を再確認することことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△重点的な取組期間以外でも継続して安全や健康に対して高い意識が持てるように工夫していく。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>峰山学園の一員として、学園経営方針に沿いながら教育課題の改善に向けて取り組む。</li> <li>・確かな学力の育成</li> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園共通の教育目標及び目標指す児童像を掲げ、その達成に向けた取組を進める。</li> <li>・小中一貫教育を進めるための、小中連携及び小中連携の取組の意義を理解し意識的に参加する。</li> <li>・小ースタートカリキュラムの実施、算数のモデルカリキュラムの自校化に向けた取組を進めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○峰山学園として本年度からスタートしているが、昨年度までの実績の上に立ちスマーズに小中一貫教育を進めることができている。</li> <li>○峰山学園内での交流の機会を通して児童相互の関係づくりを深いものにすることができた。</li> <li>△峰山学園としての取組を様々な機会を通して広報していく必要がある。</li> </ul>	
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な授業参観や行事への参観、日常的な家庭訪問や電話等を使っての連絡を実施する。</li> <li>・学校や児童の様子等、学校・学級だよりやホームページ等を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。</li> <li>・学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。</li> <li>・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月保護者が来校し児童の様子を見てもらう機会を設定できた。教育活動を見てもらうことで児童も教師も心地よい緊張感とともに内容の充実を図ることができた。</li> <li>○1学期は長岡っ子交流会、2学期は運動会と保護者以外の方にも参加していただけける行事を組むことができた。</li> <li>△情報の発信をこまめに行うことで学校への関心を持つていただき協力体制を高めていきたい。</li> </ul>	
研修（品質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内での教育実践を通じ、中堅教員を中心とした教育実践力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の重点研究を推進していく取組や取組過程の中で、教科指導力の向上を図る。</li> <li>・音楽フェスティバルへの参加、体力向上プロジェクト実践校の取組を通じ中堅教員の企画・運営力の向上を図る。</li> <li>・各学年重点行事に取り組む中で、取組方法や手立て等の交流を充実させ、教職員相互の学びにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進、音楽フェスティバル、体力向上プロジェクト実践校の各取組において中堅教員が充実感を感じて終えることができた。</li> <li>○中堅教員を中心とした取組に対してペテラン教員等からの支援の働きもあり、教職員の協働がみられた。</li> <li>△各教員のさらなる力量の向上に努めていく。</li> </ul>	
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の向上に向けた取組の充実（教師の授業力の向上、繰り返し学習による基礎的な内容の定着、家庭学習の定着と充実）</li> <li>・学級経営の充実による、安心して学習・生活できる場の確保</li> <li>・特別活動の取組等を通して、お互いが認め合える人間関係づくり</li> <li>・教職員のさらなる協働性の高まり</li> </ul>			

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

評価項目	重点目標	具体的方策	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
			前年度の成果と課題	
教育課程指導 学習	1 意欲や創造性のある確かな学力の育成 2 自分や友達を大切にする豊かな心の育成 3 強い心と丈夫な体の育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の底上げ、落ち着いた学校状況の実現</li> <li>△児童課題と指導課題の一体化、焦点化による実践力・学校力向上の取組の重点化</li> <li>△大校区人権連携事業の取組を通じた小中一貫教育の推進</li> <li>△安心・安全な教育環境、開かれた学校づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究の充実、言語活動の工夫による学力向上</li> <li>△各基礎学力診断テスト結果分析、授業改善、全学校体制による基礎体力・危機管理力の向上</li> <li>△基礎体力・危機連携事業の充実推進と小中一貫教育研究</li> <li>△学校経営システムの構築と充実推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。</li> <li>○各基礎学力診断テスト結果分析、授業改善、全学校体制による基礎体力・危機連携事業の充実推進と小中一貫教育研究</li> <li>○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導法を確立し、基礎学力の向上を図ることができた。</li> <li>△運程表を改善し、放課後回復指導の充実を図る。</li> <li>△算数科を重点研究教科とし、授業改善を図る。</li> <li>△形成評価を工夫した効果測定に基づく、個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。</li> <li>△家庭と連携して家庭学習習慣、家庭読書習慣の定着を図る。</li> </ul>
生徒指導	○「いじめ」「不登校」等の諸問題に対し、未然防止に向け日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を通して、人権尊重、規範意識の醸成、児童の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を見つける力、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。</li> <li>○児童の学力実態や学習状況を把握し、実践研究成績を踏まえ、基礎的基本的事項の定着を図るべき授業改革を進め、少人数指導の成果を踏まえ、指導法の改善を重点的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で思考力・言語力（書く・読む・表現）の向上を図る。</li> <li>・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上のための授業改善を図る。</li> <li>・少人数指導、児童支援加配により、個別支援の充実を図る。</li> <li>・「人権教育」研究を進め、指導力の向上を図る。</li> <li>・組織的指導体制を整え、全校算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。</li> <li>・計画的に効果測定を行い、授業や補習により基礎的学習内容の早期回復を図る。</li> <li>・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。</li> <li>○道徳、人権学習、課題を克服することができる。</li> <li>○年間を通して多様な異年齢活動・体験活動の推進により、豊かな人間関係の育成を図していく力」の育成により、各学級経営評価を基にした実践研修により、学級経営力の向上を図ることができる。</li> <li>○「自ら考え、課題を解決していく力」の育成により、各学級下校・地域での基本的生活習慣の確立、△登下校、心の教育など、家庭・地域との連携の強化を図る。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科体育、遊び、体力づくりを通して教科体育、基礎体力の向上を図る。</li> <li>○習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させる。</li> <li>○安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な徹底を図る。</li> <li>○危機管理意識・対応能力・危機対応力を培むための育成する。</li> <li>○健常な心と体に成りきるための、たやすく生きる実践力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科体育の充実、日常的な遊びの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。</li> <li>・計画的な食育・保健指導の成果を高揚を図ること・特設の食堂・保健指導の成果により、保健意識・対応意識・対応能力を高めることの連携・訓練、施設管理を行って、危機管理力の向上を図ることができる。</li> <li>・安全管理の徹底が図られた。</li> <li>・校内事故防止・地域での事故防止・保護者・地域連携による事故改善を図る。</li> <li>・登下校・地域の事故防止指揮・登下校安全指導・体制の充実を図る。</li> <li>・生活習慣の改善を図る。</li> <li>・登下校の充実を守るために地域・PTA連携の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通じて教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができる。</li> <li>○きめ細かな日々月ごとに、保健意識・対応意識・対応能力を高めることの連携・訓練、施設管理を行って、危機管理力の向上を図ることができる。</li> <li>○校内安全指導・保護者・地域連携による事故防止・基本的生活習慣の改善を図る。</li> <li>△生活点検の取組を活用し、基盤的環境整備・施設整備に取り組む。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大中校区人権連携事業を充実させる。</li> <li>○大中校区小中一貫教育実施に向け共同研究を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を高めることで、大中校区合同研修の充実を図る。</li> <li>・汽水域を中心とした連携・小中連携活動の充実を図る。</li> <li>・中学校卒業までを見通した教育課程編成の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大中校区人権連携事業の取組により、児童生徒連携活動、職員合同研修、自己肯定感を高める授業づくり等、小小中連携・小中連携活動を充実させることができる。</li> </ul>
特別支援教育取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。</li> <li>○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネータの機能を生かし、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。</li> <li>・定例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。</li> <li>・発達障害理解・指導についての理論的研修の充実を図る。</li> <li>・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関する研修を行って、個人に応じた支援を充実させることができる。</li> <li>○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら個に応じた個別的な支援の充実を図ることができる。</li> <li>△さらには、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づく個に応じた支援の充実に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていけることを実感するところを開かれた学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。</li> <li>・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくため、懇談会活動の充実を図る。</li> <li>・地域の教育素材・人材を学校教育の充実に活かしていくための連携の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別課題に対して、迅速で丁寧な家庭との連携を行う事ができる。</li> <li>○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができる。</li> <li>△子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<p>【推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営システム（運営会議→企画委員会・学年主任会→分事部会・学年会）について、さらに学年経営統括を強化するために、経営会議としての学年主任会、教育推進会議としての企画委員会とし、任務・会議を分離し、学校運営システムの改善を図る。</li> </ul> <p>【教育活動・研修活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育成するための教育活動の充実を図る。</li> <li>・算数科を中心に行なう授業改善の取り組みを充実させ、基礎学力の向上を図る。</li> <li>・人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して、生活上の諸問題を解決する力を培うための学級経営・学校運営の充実を図る。</li> <li>・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。</li> </ul> <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園の組織運営・教育活動の充実を図るべく、校内組織（保幼小中連携部会）による推進・機能強化を図る。</li> <li>・学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。</li> </ul>	<p>【推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営システム（運営会議→企画委員会・学年主任会→分事部会・学年会）について、さらに学年経営統括を強化するために、経営会議としての学年主任会、教育推進会議としての企画委員会とし、任務・会議を分離し、学校運営システムの改善を図る。</li> </ul> <p>【教育活動・研修活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育成するための教育活動の充実を図る。</li> <li>・算数科を中心に行なう授業改善の取り組みを充実させ、基礎学力の向上を図る。</li> <li>・人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して、生活上の諸問題を解決する力を培うための学級経営・学校運営の充実を図る。</li> <li>・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。</li> </ul> <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園の組織運営・教育活動の充実を図るべく、校内組織（保幼小中連携部会）による推進・機能強化を図る。</li> <li>・学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。</li> </ul>	<p>次年度に向けた改善の方向性</p>

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立大宮南小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 案		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	進んで学ぶ子どもの育成 ①学習規律の確立 ②言語活動の充実 ③学び合える授業の工夫 ④読書活動の充実 ⑤家庭学習の充実	①大宮中学校区共通の学習規律「学びの力」を身に付けさせ、中一ギャップ解消を図る。 ②全教科・領域の中で言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 ③安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し、質の高い学力を付ける。 ④週1回の図書館司書加配を活用し、読書に親しめる仕掛けを講じる。個別の目標を持たせ、家庭読書も進めさせる。 ⑤中学校区統一の家庭学習頑張り週間だけでなく、自主的な学習ができるよう、「自習学習ノート展示会」を実施する。		○学習準備忘れが課題であったが、強化取組中には72%の児童が「忘れ物ゼロ」となり、集中して学習に向かえた。 ○言語活動を意図的に取り入れ、95%の児童が「自分で考え、伝え合うことができた」と自己評価している。 ○△算数科での複数指導により、年度末テストで80点以上の児童が8割を超えた学年は6学年中4つあった。 ○読書貯金の取組では、学期ごとに目標を設定し意欲的に読書できた。達成賞をめあてに頑張る児童が増えた。 ○大宮中と同時に開催の家庭学習頑張り旬間ににより、家庭学習が習慣化した。また、言わなくても自習学習をする児童が、低学年半数、高学年8割を超えた。	
生徒指導	笑顔あふれる子どもの育成 ①規範意識の醸成 ②ふるさと、人、友だちとつながる力の育成 ③責任感の育成 ④愛言葉〈挨拶おれ・ごめんなさい・どうぞ〉の心の育成			○人のことを考えたルールやマナーを考えさせたことで、廊下を走る児童が激減した。 ○人権学習や友だちのよさを認め合う活動により、自尊感情が高まるとともに、自分も人も大切にしようという気持ちが高まり、トラブルが減った。 ○気持ちのよい挨拶が自分からできる児童が増え、「活気ある学校だ」と、来校者から評価されている。 △丁寧な教育相談をしているが不登校傾向児童が多い。	
健康 (体育)・安全	一生懸命頑張る子どもの育成 ①体力づくりの推進 ②生活習慣の確立			○カードを刷みにし、年間で多数の児童が目標距離を達成した。 △家庭と連携してテレビ、ゲームの時間を見直したが、早	

		<p>③ 苦手なことにチャレンジする心</p> <p>であることを指導しよりよい生活習慣を身に付けさせる。 ③苦手な事でも、互いに励まし合い粘り強く頑張ったことが「よかったです」と実感できる取組を仕組み、自尊感情を高める。</p>	<p>寝達成率には、やはり課題が残る。(特に冬休み中)</p> <p>○友だち、教員から肯定的な評価をもらい、「いろいろなことにチャレンジした」と実感できる児童が 97% であった。</p>
小中一貫教育への取組	人権教育を基盤とした取組	<p>①自ら学ぶ意欲の向上 ②キャラクタ教育の充実 ③自尊感情を培う教育の推進</p>	<p>大宮中学校区人権教育総合推進地域事業を協力して進める。</p> <p>①全教科で「言語の力」向上のための学習指導を実践する。 ②児童生徒のやる気を生かし、進路実現を見据えた行事を企画させ、福祉体験活動やボランティア活動をさせる。 ③命を大切にし自他を尊重する原則のもと、集団生活における規範意識を尊重し、協力しようとするとする取組を進める。</p>
危機管理	最悪を想定し、迅速な対応	<p>①保護者、地域の方、来校者への丁寧な対応に心がける。 ②報・連・相・確認を徹底し、情報把握と迅速な対応を図る。 ③広い校区の登下校は、ボランティア団体や防犯ステーションとの連携を図り、安全指導を徹底する。 ④教師の鋭い人権感覚を研ぎますし、児童の人間関係、なかも関係を把握し、いじめ等が見つかれば、早期に対応する。 不登校傾向については、保護者面談を複数で行う。 ⑤児童自身で、危険を回避する力を付ける。</p>	<p>○苦情には迅速かつ組織的な対応に努め、最小限に抑えた。 ○報・連・相・確認を徹底し、組織的に動くことができた。 ○地域ボランティア団体の協力と生徒指導部を中心とした指導体制により、事故なく登下校できた。</p> <p>○児童の変化に敏感に対応するために、週 1 回の教育相談を行った。また、担任一人に抱え込ませないようにした。 △失敗を教材化し、教員に指導方法を考えさせたが、児童が危険を回避する力は、まだ不十分である。 △大きな怪我はなかったが、不注意の怪我が 13 件あった。</p>
職員研修	全教職員の資質向上	<p>①子どもを上達させるための力を付ける。 ②授業づくりだけでなく、学級づくりについて、和気藹々と学び合える教職員集団とする。 ③人権教育の研究を基盤として、小中一貫教育に関する研修を深める。</p>	<p>○文科省人権教育研究発表会に向け、個々の教員の評価基準が高くなると共に、児童の肯定的な変容を互いに評価し喜ぶことで、教職員自身が自己有用感を持てた。</p> <p>○全校集会で全教員が順番に全体指導をする場面を意図的に設定し、教員の「学び合い・高め合い」ができた。</p> <p>○目標に対して児童が変容するまで、同一步調で粘り強く指導し、振り返りを丁寧に行う PDCA サイクルで実施したことで、落ち着いた雰囲気の中で学力充実に励めた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・ 小中一貫教育として、スマーズに 4 月からスタートできるようにする。 ・ 基礎学力を基に、活用能力を付けたための指導方法を駆使する必要がある。 ・ 「予防教育」についてさらに研鑽を積み、児童、教員の自尊感情を高める。 ・ 学校渋り傾向等の不適応児童もいるので、今後も丁寧な教育相談活動が必要である。</p>		

## 平成26年度学校評価報告

学校名 [ 京丹後市立網野北小学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
目指す子ども像 あ：明るく元気にして学ぶ子 み：みんながいきなり組む子 の：のびのび生きる子 【知】意欲的に学習に取り組む子 【徳】規範意識を持つ子 【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子 1 規範意識をもつて授業に取り組み、全児童が規範意識を大切にした授業を行った。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いや人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会どつながり、郷土を愛する心を育てる。	【成果】 1 研究と実践の成果と基礎学力診断テスト等の結果とが一致する研究をを目指してきました。大半の学級が全国、府の平均を上回り、保護者のアンケートではほぼ肯定的な意見が多く、学校への満足度は高い。日々の学級経営の積み上げの結果である。 2 足りない。日々の学級経営は「これだけは！」に基づき、全教師が積極的に取り組み、全児童が規範意識を大切にした学校生活にできる。 【課題】 1 児童は落ち着いた学校生活を過ごし、いろいろな取組に積極的にあります。しかし、児童の個々課題が大きく、組織的に粘り強く取り組む必要がある。 2 全教科において学習の基盤となる言語力の向上を念頭に置いて指導を行う。	1 小中一貫教育の子どもたちと指導の一貫性を目指した教育課程を編成と実施、検証を行う。 2 市モデルカリキュラムの自校化、「言語力」「学び方」を図る。(網野町域と関わらせた研究くらし・人・地域)	1 「単元を通じた授業づくり」「かく活動」を中心とした授業づくりや授業とリンクした家庭学習を基盤に、学力充実・向上を図る。 2 全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、形成テスト等を活用し、各学年で学習すべきトピックや補習(高校生による補習)等の実施や年度末のDRTテストを実施し定着を図る。	1 学級経営・学年経営の充実 2 網野中学校給食研究会の実施 3 学力充実・向上 4 特別支援教育の充実 5 国際宇宙ステーションとの交信 6 命を守る 7 第2土曜日の活用(「わくわくサタディー」実施) 8 PTA、家庭・地域等の信頼関係の構築 9 学校支援ボランティアを活用して、子ども達に学習や活動の意欲を向上 10 児童は落ち着いた学校生活を過ごし、いろいろな取組に積極的にあります。しかし、児童の個々課題が大きく、組織的に粘り強く取り組む必要がある。 11 児童は落ち着いた学校生活を過ごし、いろいろな取組に積極的にあります。しかし、児童の個々課題が大きく、組織的に粘り強く取り組む必要がある。 12 全教科において学習の基盤となる言語力の向上を念頭に置いて指導を行う。	○小中一貫教育の教育課程に基づき指導時間数等を確保でき、系統だった指導ができた。 ○6年全国学力・学習状況調査の国語・算数では、おおよそ基礎・能力・学力・学習力とも府、基に、「くらし・人・地域」で研究した指導方法を町域内に広めることができた。 ○モニタリング(高校生による補習)等の実施や年度末のDRTテストを活用し、改善の取組を全校で推進できた ○家庭学習強化週間に取組を基盤に日々の学習とリンクさせたり家庭と連携して家庭学習を年間継続する。 △より一層教師の指導力を向上させる。 △家庭と連携して家庭学習を年間継続する。
評価項目 教育課程 学習指導	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
生徒指導	1 規範意識の醸成で充実感のある学校生活を過ごさせる。 2 児童同士や児童との信頼関係を構築する。 3 不登校・いじめを未然に防止する。	1 学級活動・学年活動を基盤とした特別活動等を計画的に実施して、自尊感情を育成する。 2 網野町域小中一貫教育「これだけは」を遵守させる。 3 組織対応により、不登校・いじめを未然に防止する。 4 PTAや地域と連携し、あいさつや交通マナーの向上を図る。	○毎月の目標を決め、一齊に取組を進めることで規範意識が向上し、児童が落ち着いた学校生活を過ごせた。 ○全教職員の一致した取組で、いじめ・不登校等の諸課題に的確な対応ができた。 △○ネット社会に対応するための、教職員の研修と児童への指導、PTAへの啓発をより一層進める。		

健康（体育・安全教育）	1 防災安全教育や保健教育を充実を図り、命を守る教育を推進する。 2 グラウンド芝生の維持・管理を徹底する。	1 地震、火災、津波等に対する避難訓練を計画的かつ継続的に実施する。 2 薬物防止等の教室を開催し、命を守る教育を推進する。 3 グラウンド芝生の維持・管理等をはじめとする安全な教育環境整備に努める。	○避難訓練や外部講師による薬物乱用や防正教室等の開催をして命の大切さを教え、生活に役立てることができた。 △○児童の維持管理は多くの労力と時間が必要であり、行政、PTA、地域の方とも協力して進めることができた。 △小中一貫教育の一として津波の避難訓練を網野中学校と予定していたが、天候の関係で未実施となつた。
		1 10年間を見据えた教育を全教職員で行う。 2 規範意識の醸成と学力の向上を目指す。 3 子どもも交流事業と教科指導の交換を推進する。 4 保護者、地域に信頼される学校づくりを行う。	○教育計画を揃え全教職員が一体感を持つて教育活動に取り組み、落ち着いた「学校、学級、授業」になつた。 ○共通指導事項「これだけは」を徹底したことで、系統的な指導方法による授業ができるようになつた。 ○保・幼・小連携は指導内容の交流と検討を行い、継続的指導を行う。 △より指導効果を高めるために、家庭も巻き込んだ取組に取り組むことやPTA組織の編成を進める。
小中一貫教育への取組	1 「これだけは」を基づく指導を徹底する。 2 「これだけは」（授業編・家庭編）に基づく指導を徹底する。	1 目指す子ども像と教育目標の共通化のもとに学校経営の基本方針を立て、教育の方向性をそろえる。 2 授業研究とおしゃべり会、「これだけは」（授業編・家庭編）に基づく指導を徹底する。	○個別の教育支援計画や指導計画をもとに指導したことで、基礎学力を身に付けることができた。 ○発達障害のある児童への特別支援教室構想に基づく取組により、効果的な学習指導ができた。 △学校（担任・組織）と保護者の緊密な連携を進めたが、児童が安定した学校生活を過ごせなかつた。 △情緒障害児学級の開設に伴う運営を機能させる。 △学校全体で特別支援教育の視点を入れたユニバーサルデザイン授業の推進と教室環境整備を図る。
		3 授業研究による各種連携による指導を推進したりする。 4 総会、リーフレット、ホームページ、たより等の場において情報発信を行い、理解と協力を得る。	○発達等に障害のある児童実態を踏まえた教育課程の編成で基礎学力の充実を図る。 ○理解教育と交流学習を推進し、児童理解と個々の状況に応じた配慮、支援を行う。 ○成長できる学級経営の在り方と授業の指導方法を研修する。（ユニバーサルデザイン） ○保護者への教育相談活動の充実を図る。
特別支援教育	1 特別支援教育への理解と指導の充実を図る。 2 児童への指導力を向上させる。	1 発達等に障害のある児童実態を踏まえた教育課程の編成で基礎学力の充実を図る。 2 理解教育と交流学習を推進し、児童理解と個々の状況に応じた配慮、支援を行う。 3 発達障害の児童とともに成長できる学級経営の在り方と授業の指導方法を研修する。（ユニバーサルデザイン） 4 保護者への教育相談活動の充実を図る。	○「くらし・人・地域」の教科で市モデルカリキュラムの自校化「言語力」「学び方」を公開授業で広めることで、○「言語力」「学び方」に焦点化した研究を推進したことで、ねらいに応じた考え方を書くことができるようになつた。 △十分な時間を確保して研究ができるなかつたので、時間を作った校内研究を推進していく。
		1 昨年度の成果と課題をもとに、「くらし・人・地域」の研究を進める。 ※市学校給食研究会の発表を行なう。	○「くらし・人・地域」に則り、学びスタイルの確立と活用能力を向上させる。 2 「くらし・人・地域」と進んでつながり、言語活動の充実させた授業づくりを行う。
研修（資質向上への取組）	1 学級経営（学年経営）の充実を基盤として特別活動等、全校的な教育活動につなげ、児童の目指す子ども像を達成するために網野学園小中一貫教育共通指導事項「これだけは」（授業編）の徹底 2 「これだけは」（基礎、基本の定着（小4ふりかえり学習）） 3 情緒障害児学級の運営を機能させ、ねらいを達成する。 4 情緒障害児を未然に防止する。 5 PTAや地域と連携した学校づくりを行う。	1 「これだけは」（授業編）に則り、学びスタイルの確立と活用能力を向上させる。 2 「くらし・人・地域」と進んでつながり、言語活動の充実させた授業づくりを行う。	○「くらし・人・地域」の教科で市モデルカリキュラムの自校化「言語力」「学び方」を公開授業で広めることで、○「言語力」「学び方」に焦点化した研究を推進したことで、ねらいに応じた考え方を書くことができるようになつた。 △十分な時間を確保して研究ができるなかつたので、時間を作った校内研究を推進していく。
		1 学級経営（学年経営）の充実を基盤として特別活動等、全校的な教育活動につなげ、児童の目指す子ども像を達成するために網野学園小中一貫教育共通指導事項「これだけは」（基礎、基本の定着（小4ふりかえり学習）） 2 「これだけは」（基礎、基本の定着（小4ふりかえり学習）） 3 情緒障害児学級の運営を機能させ、ねらいを達成する。 4 情緒障害児を未然に防止する。 5 PTAや地域と連携した家庭学習の推進	○「くらし・人・地域」の教科で市モデルカリキュラムの自校化「言語力」「学び方」を公開授業で広めることで、○「言語力」「学び方」に焦点化した研究を推進したことで、ねらいに応じた考え方を書くことができるようになつた。 △十分な時間を確保して研究ができるなかつたので、時間を作った校内研究を推進していく。
次年度に向けた改善的方向性			

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立網野南小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	○よく「学ぶ」学校 1 目を輝かせて学習に向かう 児童の育成 2 「思考」「つながる」「体験」を重視した分かる授業の創造 3 どの子も学びやすい個に応じた指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の教科指導力を高める研修を日常的に推進する。</li> <li>・小中一貫教育の「これだけは」(学習スタイル)(授業編)に基づく授業を、組織的・継続的に進める。</li> <li>・スキルタイム、放課後補充、プラスワンスタディ、個別指導等、学力向上プログラムによる指導の推進</li> <li>・児童の学習意欲を高めるため、家庭学習の取組を進める。(家庭学習がんばり週間等)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習スタイルの確立については、どの学年も取組を進め、落ち着いた授業ができるようになつた。</li> <li>○ペア学習やグループ学習を取り入れ、考える授業、学び合う授業ができるようになった。</li> <li>○中学校のテスト週間に合わせた「家庭学習がんばり週間」の取組が実施でき、意欲的に自主学習を進める児童が増え、学力の向上に結び付いた。</li> </ul>	△どの学年でも思考を促す授業を進めていく必要がある。
生徒指導	○よさで「つながる」学校 1 規律をもち当たり前のことが当たり前にできる児童を育成 2 よさでつながる児童の育成 3 いじめ、暴言を許さない機運の徹底 4 居場所があり過ごしやすい教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育の共通指導事項「これだけは」を組織的・継続的に進める。(授業規律の確立と規範意識の醸成)</li> <li>・再配置1年目で2つの学校の児童が共に生活することから、「つながる」「きずな」等をキーワードとし、すべての取組をつなげていく。</li> <li>・いじめや問題事象等の対応は、素早く迅速に行う。いじめアンケートなどを活用し、児童の状況を把握する。</li> <li>・成果のある学級経営の取組や工夫を定期的に交流し、教員の指導力を高める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○集会活動やランチルーム等、全校で集まる場での規律を大切にしたことで、静かにし、話しことに体を向ける等、聽く態度が良くなつた。</li> <li>○児童会活動を中心にして、「よさみつけ」「きづなづくり」の取組が行わされた。よさでつながることの児童のイメージが広がった。</li> <li>○はじめ対策委員会がかかわる事象もいくつかあったが、迅速で組織的な対応ができた。</li> </ul>	△学校全体がよい雰囲気だからこそできる取組の創造

健康（体育）・安全	<p>○心と体を鍛え、生き生きわくわく「躍动感」のある学校づくりを計画的に進める。</p> <p>・「元気アッパード」等、生活リズムを付ける取組を定期的に実施する。</p> <p>・安全についての意識を高めるため、避難訓練や不審者訓練、防災訓練等を計画的に進める。</p>	<p>・市小学校駅伝大会 3連覇を目指し、朝マラソン等、体力づくりを計画的に進める。</p> <p>・「元気・やる気・根気の育成」を動かすことが好きな児童の育成</p> <p>3 やりきらせる指導</p> <p>4 生活リズムの確立</p>	<p>○体力づくりの取組を、年度当初より計画的に実施し、駅伝大会で優勝し、3連覇を達成した。</p> <p>○年間3回の生活点検を実施し、「早寝、早起き、朝ごはん」等の生活リズムを整えるきっかけをつくることができた。</p> <p>○11月冬校時から集団下校を実施、3月には不審者侵入訓練を実施し、安全に対する児童の意識を高められた。</p>
小中一貫教育への取組	<p>○網野町域小中一貫教育の全面実施</p> <p>1 「目標す子ども像」「学校教育目標」「これだけは」の推進</p> <p>2 各会議、各部会の推進</p> <p>3 授業づくりについて実践研究を深め、「これだけは」(授業編)の授業を推進</p>	<p>・「環境が子どもを育てる」という理念のもと、落ち着いた学校、落ち着いた授業を目指す。</p> <p>・授業づくりを通して、教材解釈の方法、具体的な指導方法等を集団的に研修する。</p> <p>・小中一貫教育の目標と自校課題をマッチングさせ、共通の指導事項や教育課程に踏み込んだ取組で着実に成果を出す。</p> <p>・児童生徒の行動連携の機会を大切にし、学校として積極的に取組を進める。</p>	<p>○共通の指導事項(話し手の顔を見る等)を基に、聞く態度4項目を作成し、学校全体で取り組むことができた。</p> <p>○「これだけは」(授業編)に係る授業づくりを推進し、確実な学力向上に結び付けることができた。</p> <p>○行動連携として取り組まれた多くの内容を通して、児童の「つながる」意識(小中間と小中間)を育てることができた。</p> <p>△授業研究の仕組みが複雑になり、自校研究が不活性となつた。</p>
特別支援教育	<p>障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じ、障害に基づく種々の困難の改善・克服を図りながら個性や能力の伸長に努め、心豊かでたくましく生きる力を養う。</p>	<p>・一人一人の児童の発達の様子、課題を明らかにし、個に応じた教育課程を編成し、基礎的な力を育てる。</p> <p>・配慮を要する児童の実態について共通理解し、研修を深め、個別の指導計画等を作成し、個々の児童のニーズに応じた指導を進める。</p> <p>・特別支援学級や通級指導教室等について、正しい理解と認識を育てる。</p> <p>・特別支援教室構想に係る実践を進めると。</p>	<p>○定期的に、又は、必要に応じてケータス会議を実施し、配慮児童の共通理解とともに同一方向での指導ができる。</p> <p>○「応援する会」と名付け、配慮児童と関係職員との会議を実施し、短期目標の行動化を促した。自己の発達特性を見つめさせる機会となつた。保護者面談も定期的に行つた。</p> <p>○授業でのユニアーバーサルデザイン化について研究実践を進めることができた。</p> <p>△発達障害(LD等)についての研修が更に必要である。</p> <p>○ホームページの発信が日常的にでき、アクセス件数も30万件をこえ、保護者の閲覧もやや多くなり、学校の取組についての関心が高まつた。</p> <p>○授業参観等、多くの参加者が少ない。</p> <p>△学級懇談会の参加が少ない。</p>
開かれた学校づくり	<p>関係機関、保護者・地域との連携を大切に進める。</p>	<p>・ホームページ等、積極的な情報発信を行う。</p> <p>・授業参観、懇談会を定期的に実施する。</p> <p>・児童及び保護者の評価アンケートを実施する。</p>	<p>○再配置2年目、網野町域小中一貫教育2年目として、更に、児童や保護者が安心して通える学校を目指す。</p> <p>・落ち着いた学校、落ち着いた授業づくり</p> <p>・生き生きわくわく「きずな」「つながり」を更に広げ深める。</p> <p>・児童生徒、教職員の行動連携を推進する。</p> <p>・問題解決的な学習、探究的な学習を推進する。</p>
次年度に向けた改善の方向性			

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもにも、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会となり、郷土を愛する心を育てる。	○学校教育目標を基に、達成目標を設定し、企画委員会が提起した短期課題を、全校で取り組む「島小システム」のサイクルが意識できるようになってきた。 ○重点研究「理科」の最終年度として、他教科にも通じる指導法の研究を進めることができた。 △『楽しい学校』を目指し「かがやき」の場面を意識した日常実践を進めることができ弱かつた。 △個に応じた学力向上の取組を、更に充実していく。	1 統一した教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育本格実施を生かした日々の実践を推進する。 2 合言葉(短期目標)を常に意識し「島小システム」による学校運営を進める。 3 小中一貫校として授業研究を積極的に進める。 4 いじめ問題、生徒指導・教育相談の充実を目指す。 5 勤務時間縮減、管理能力を高める取組を進める。 6 保護者の評価場面を作り、次の活動に生かす。	○「これだけは！」についての理解が高まり、全校体制で取り組んでいく意識が育ってきた。 ○小中一貫校としての研究授業を実施し、他校の先生と研究を深めることができた。 △授業規律の確立と規範意識の醸成について弱さが見られた所があった。 △図工科の指導スタイルを他教科でも積極的に生かしていくようにしたい。 △家庭学習の良さを児童が実感する取組にする。	○小中一貫校として、日常的に「これだけは！」について意識を高めることができた。 ○主要分掌や児童会活動で「合言葉」を意識した活動の提案がされるようになってきた。 △学級経営の中に「合言葉」を取り入れた活動を仕組んでいくことを進めていく。 △問題事象解決を、全校体制で行う指導手順の共通理解をさらに深めていく。
生徒指導	• 小中一貫「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 • 「島小システム」を機能させ、活動する児童を育成する。 • 心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	• 常に規範意識を大切にした児童の活動を大切にする。 • 学期毎に内部評価アンケートを実施し、的確な指導を進めること。 • 短期目標「合言葉」を意識した取組を意図的に計画していく。 • 実態把握に努め、いじめ事象解決に向けた取組を進める。	1 統一した教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育本格実施を生かした日々の実践を推進する。 2 合言葉(短期目標)を常に意識し「島小システム」による学校運営を進める。 3 小中一貫校として授業研究を積極的に進める。 4 いじめ問題、生徒指導・教育相談の充実を目指す。 5 勤務時間縮減、管理能力を高める取組を進める。 6 保護者の評価場面を作り、次の活動に生かす。	○「これだけは！」についての理解が高まり、全校体制で取り組んでいく意識が育ってきた。 ○小中一貫校としての研究授業を実施し、他校の先生と研究を深めることができた。 △授業規律の確立と規範意識の醸成について弱さが見られた所があった。 △図工科の指導スタイルを他教科でも積極的に生かしていくようにしたい。 △家庭学習の良さを児童が実感する取組にする。	○小中一貫校として、日常的に「これだけは！」について意識を高めることができた。 ○主要分掌や児童会活動で「合言葉」を意識した活動の提案がされるようになってきた。 △学級経営の中に「合言葉」を取り入れた活動を仕組んでいくことを進めていく。 △問題事象解決を、全校体制で行う指導手順の共通理解をさらに深めていく。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立。</li> <li>・健康の保持増進と体力の向上を図る。</li> <li>・安全への実践的態度の育成を図る。</li> <li>・食育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校「これだけは！」の大切さを保護者に知らせ、意識を高める。</li> <li>・始業前の朝マラソン、なわとび等計画的に実施して、体力の向上を目指す。</li> <li>・小中一貫校給食「これだけは！」の取組や日常的に食育指導を進めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「これだけは！」家庭編を活用し、保幼とも連携して啓発できた。</li> <li>○体力作りを児童の興味ある内容で実施できた。</li> <li>△生活習慣の大切さを伝える機会を多くする。</li> <li>△毎日の給食指導を大切にし、食に対する意識の向上を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校の方針を基に、効果的な指導を進める。</li> <li>・生徒会、児童会が連携し、実践的態度を育てる。</li> <li>・教科部会、学年部会の研修の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校の組織を機能させ、年間計画に沿った各部の取組を推進する。</li> <li>・教科領域、学年部会の中で、授業公開と事後研究会を実施し研修を深める。</li> <li>・児童会と生徒会が具体的な活動を通して連携した取組を進めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経営部が中心となり取組を進めることができた。</li> <li>○小中一貫校としての授業研究会を、全学年で実施して研修を深めることができた。</li> <li>○交流の中で、中学生の姿を目指す取組ができる。</li> <li>△中学校教員との研修の機会をさらに増やす。</li> <li>△自校会議の時間確保をする日程を考えていく。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級児童の障害を理解し、学力充実と自立する力を育てる。</li> <li>・発達障害の特性がみられる児童に対して、組織的な取組を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援学級保護者と定期的な懇談を実施し、指導の充実を目指す。</li> <li>・配慮を要する児童に対して、課題を整理し効果的な指導を進めていく。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識した指導を日常的に進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期毎に懇談をしたり、日常的に連絡をとつたりする中で、指導の理解を得ることができた。</li> <li>○配慮を要する児童について、校内体制を組んで対応することことができた。</li> <li>△関係機関と連携しながら、配慮児童に対する指導を充実していく。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再配置後3年目を意識し、地域への情報発信を積極的に進めめる。</li> <li>・地域と連携し、地域の教材を積極的に取り込んだ教育課程を編成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や日常活動についてホームページで紹介し、教育活動に理解を得る取組を進める。</li> <li>・祖父母参観等の機会を通して、地域の高齢者との交流を深める。</li> <li>・地域の自然環境や人材を生かした授業を積極的に取り組んでもいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA総会や学校開放日、祖父母参観等の機会ある毎に、本校の教育活動について説明する機会を作ってきた。</li> <li>○地域の自然や文化を教材化した学習活動を進めることができた。</li> <li>△地域の自然や文化を生かした「丹後学」の教材の研究を進める。</li> </ul>
次年度に向けた改善的方向性	1 小中一貫教育の取組を積極的に推進し、網野学園としての取組を日常的に意識して実践し、効果的な指導を進めいく。 2 地域の人的、物的資源を大いに生かした教育課程を編成し、指導スタイルをしつかり持った学校づくりを進める。 3 「島ハシシステム」を生かすことが、目標を達成する手段であることを理解し、学級経営に積極的に取り込んでいく。 4 国工科の指導研究で学んだ「やってみたい・できた」の指導過程を、他教科でも生かした指導の研究を進めて行く。 5 中学校生徒の姿を目標として、高学年が規範意識を持って自己肯定感を高める指導を推進する。 6 いじめ・不登校問題等、生徒指導部・教育相談部等が連携して、より一層組織的な対応を全校体制で進める。 7 網野学園としての意識を高め、家庭学習充実の取組を、保護者と連携して進めていく。		

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立橋小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」</p> <p>【目指す子ども像】 あ：明るく元気に入込んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） 質く、やさしく、たくましく、みんなが輝く『楽しい学校』～元気・笑顔・挑戦～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営システムによる組織的・効率的・機能的な学校運営を行うことができた。</li> <li>○基礎学力定着状況を踏まえ、指導方法の工夫・改善、家庭との連携を行い、課題克服に向けた取組が行えた。</li> <li>○異年齢の取組により、豊かな人間関係の育成が図られた。</li> <li>○課題の焦点化を図り、課題解決に向けた学校運営が行えた。</li> <li>△課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図り、教科指導力、学級経営力の向上を図るために研修を充実させる。</li> <li>△網野町域小中一貫教育による教育活動の充実に努める。</li> </ul>	<p>1 賢く=明るく元気に進んで学ぶ子 学力の充実、向上と一人ひとりの個性、良さ、可能性を伸ばし、将来に夢と希望の持てる児童を育てる。</p> <p>2 やさしく=みんななかよく支え合う子…学び合い、励まし合い、支え合う豊かな人間関係を築く。</p> <p>3 たくましく=何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。</p> <p>4 みんなが輝く楽しい学校=のびのび生き生きやり抜く子… 授業作りと学級作りを運動させ学校を共有し合い、個性豊かな児童を育む。</p>	<p>○学力診断テスト等の結果分析、基礎学力達成状況を踏まえ、個に応じた学習課題克服に向け取り組み、基礎学力の定着を図ることが出来た。</p> <p>○言語活動の充実に向けた取組を全校体制のもとに、星ドリルの全校一斉の取組、各教科の中での言語活動の充実等、研究に対する校内体制を整え実施する事ができた。</p> <p>△家庭との連携をさらに深め、生活習慣の向上、家庭学習の充実に努める。</p>	<p>○年間を通して多様な異年齢活動に取り組め、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成を図ることができた。</p> <p>○網野町域小中一貫教育の「これだけは！」授業編を全年で取り組めた。規範意識の醸成に向けて努力できた。</p> <p>○安全な登下校を目指して通学班への指導を強化した。下校時の教員による見回りも実施し児童の意識化が図れた。</p> <p>△様々な家庭背景のもとに個別の対応が必要な児童に対して、今後も他機関との連携のもとに丁寧な対応をしていく。</p>
生徒指導	<p>(1)児童の学力実態、学習状況を把握し、基礎・基本の学力を身につけさせる。</p> <p>(2)各教科に言語活動を適切に位置付け、思考力・判断力・表現力を育む。</p> <p>(3)自ら課題を見つけて、主体的に課題を解決する力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力診断テスト等の結果分析に基づく学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るために授業改善の取組を進めます。</li> <li>・「ことば、文学」の領域を重點研究とし、思いや考えを自分の言葉で豊かに表現する力、言語能力の育成を図る。</li> <li>・朝読書、星ドリル、放課後補習等の充実を図るためにの教育課程編成の工夫並びに組織体制の充実を図る。</li> <li>・探究活動を取り入れ、主体的に学ぶ機会の中で課題解決能力や学ぶ楽しさを体感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢活動や人と関わる機会を通して、自分を律し他と調和できる力、力や命を大切にできる力を育む。</li> <li>・日常の出来事を教材化し、考えさせることで思考力・判断力はじめとする規範意識を育てる。</li> <li>・定例の教育相談部会、生徒指導部会等をもとにした問題事象への対応や組織的・継続的な取組を充実させる。</li> </ul>	<p>○年間を通して多様な異年齢活動に取り組め、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成を図ることができた。</p> <p>○網野町域小中一貫教育の「これだけは！」授業編を全年で取り組めた。規範意識の醸成に向けて努力できた。</p> <p>○安全な登下校を目指して通学班への指導を強化した。下校時の教員による見回りも実施し児童の意識化が図れた。</p> <p>△様々な家庭背景のもとに個別の対応が必要な児童に対して、今後も他機関との連携のもとに丁寧な対応をしていく。</p>	<p>○年間を通して多様な異年齢活動に取り組め、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成を図ることができた。</p> <p>○網野町域小中一貫教育の「これだけは！」授業編を全年で取り組めた。規範意識の醸成に向けて努力できた。</p> <p>○安全な登下校を目指して通学班への指導を強化した。下校時の教員による見回りも実施し児童の意識化が図れた。</p> <p>△様々な家庭背景のもとに個別の対応が必要な児童に対して、今後も他機関との連携のもとに丁寧な対応をしていく。</p>

健康（体育）・安全	<p>(1)体力作りを通して何事も最後までやり通す粘り強い心を育てる。</p> <p>(2)体や命を大切にする児童の育成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した体力作りを進めること。（朝マラソン、朝縄跳び）</li> <li>・定期的な生活点検（9月、1月）や町域の『これだけは！家庭編』をもとに、基本的生活習慣の確立を目指す。</li> <li>・校内外の事故防止に努め、他機関との連携により健康や安全への意識を高める。（薬物乱用防止教室、非行防止教室、全への避難訓練の実施…不審者、津波、火災、地震、休憩時の火災）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して体力作りの取組を充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができる。</li> <li>○危機管理意識の高揚と対応力を高めるための連携・訓練を行ない、危機管理能力の向上を図ることが出来た。</li> <li>○家庭との連携のもとにテレビ・ゲームの時間や就寝时刻を意識させることができ、生活が改善した児童もある。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<p>(1)網野町域小中一貫教育の取組の趣旨を教職員が共通理解し、組織的に取組を進めること。</p> <p>(2)橋中学校、町域の各小学校との連携のもとに、縦と横の繋がりから指導力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町域の小中一貫研究組織を活用し、学年会による横の繫がりと校内の組織を運動させ、授業力、指導力を高める。</li> <li>・「ことば・文学」を重点研究とし、組織的に取り組むことで児童に思考力、言語力をつける。</li> <li>・「これだけは！授業編」のもとに、各教科指導の場面において思考を潜らせる場を設定し力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業や学年発表、集会の場で積極的に言語活動を取り入れ児童の表現力を高めるための取組が充実した。</li> <li>○橋中学校との合同避難訓練や音フェスへの合同出演、連携事業を通じ児童・生徒間の繫がりが強化できた。</li> <li>△網野町独自の中一貫教育の研究組織体制に合わせた学校としての研究については十分に機能させることができなかつた。</li> </ul>
特別支援教育			
開かれた学校づくり			
次年度に向けた改善の方向性		<p>1 学校課題、児童課題の克服に向け、教職員の協働的・組織的な動きを創り出す学校運営システムの整備・充実をさらに図っていく。</p> <p>2 網野学園構想に基づく小中一貫教育を推進し、目指す子ども像の具現化に向けて学校運営を行う。</p> <p>3 「ことば・文学」の研究を深め、コミュニケーション能力をはじめとする言語力・表現力・思考力を育む教育活動の充実を図る。</p> <p>4 特別支援教育、教育相談部会の定例化を図り、支援や配慮が必要な児童に対する組織的な対応の充実を図っていく。</p> <p>5 地域とのさらなる連携に努め、学校教育の充実に向けた教育力の活用を積極的に進める。</p>	

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立豊栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「郷土を愛し、自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」の具現化を図る教育活動・学校づくりを進める。 ・ともだちと仲良くする子　・よく考え、よく学ぶ子　・さいごまでがんばる子　・からだを鍛える子 →「地域と共に育ち、学ぶ意欲があふれる学校」		<ul style="list-style-type: none"> <li>○府小学校教育研究会「图画工作科」の研究協力校として、児童と教職員で内容のある中間発表を実施することができた。</li> <li>○学級経営が安定、基礎学力や学習意欲が向上した。           <ul style="list-style-type: none"> <li>△言語活動をとおして自己有用感を醸成していく。</li> <li>△小中一貫教育の取組と関連させ、家庭学習習慣を確立させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樂さす教育目標の具現化に向け、樂しい学習体験を味わわせる。</li> <li>・喜びを共感し合う学級をつくる。</li> <li>・意欲を高めしていく行事をつくり出していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす教育目標の充実した。</li> <li>・喜びを共感し合う学級をつくる。</li> <li>この3つの重点活動に入れ、全職員が参画した組織的な教育活動を推進していく。</li> </ul>	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の樂しさを実感させ学力を定着させる指導を全学年で実践する。(学習意欲の向上)</li> <li>・言語活動を中心とした授業改革を進め、活用していく力を伸ばす。(表現力の伸張)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図っていく。</li> <li>・意欲を引き出す图画工作教育の授業研究を進める。(描くこと・伝えることを重視した授業づくり)</li> <li>・診断テスト考察をもとにした全学年の課題回復指導をする。</li> <li>・中学校区と関連した言語活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図画工作の指導方法の共通理解が進み、指導が充実した。</li> <li>○言語活動を重視した学習形態により、課題領域の克服と基礎学力の底上げと学習意欲が一定高まった。</li> <li>△「自分の考えをまとめ、発表する」力を更に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の挨拶、異年齢遊びの増加等、気持ちのよい居場所づくりを進め、人間関係が安定している。</li> <li>○不登校児童や要配慮児童への組織的な対応ができた。</li> <li>△問題事例を教訓化し、肯定的評価を重視した生徒指導と予防教育を進めていく。</li> <li>△関係機関と連携し、更に情報や課題を共有化し、中学校への円滑な接続を行う。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導の3機能と肯定的評価を重視した取組をする。</li> <li>・楽しく学べる学習集団をつくる。(ルールや約束を守る)</li> <li>・認め合いやりのある人間関係づくりを進める。(いじめ・不登校への対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい学校生活づくりをめざして児童と教師が一体となって取り組む。</li> <li>・人権的意識の視点を基盤にした学級経営と学校行事や児童会活動を通して、児童の主体性やリーダー性を養う。</li> <li>・特別に支援を要する児童への個別の指導を丁寧に行う。(教育相談の充実等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の挨拶、異年齢遊びの増加等、気持ちのよい居場所づくりを進め、人間関係が安定している。</li> <li>○不登校児童や要配慮児童への組織的な対応ができた。</li> <li>△問題事例を教訓化し、肯定的評価を重視した生徒指導と予防教育を進めていく。</li> <li>△関係機関と連携し、更に情報や課題を共有化し、中学校への円滑な接続を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車教室、にこにこカーの活用等によって見守り活動と交通安全への意識が高まった。</li> <li>○非行防止教室の実施、情報機器の安全な扱い方にについて学ぶことができた。</li> <li>△災害時の基本的な対応、教育の奨励</li> </ul>	
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭と連携し、健康で安全な生活を営む実践力を育てる</li> <li>・食育指導や体力づくり、基本的生活リズムの取組の励行</li> <li>・事故防止・防犯指導等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な保健だよりや給食だより等を活用して児童の健康意識を育てる。(体力づくり、生活リズムや食育の取組、等の学級指導)</li> <li>・生活環境を高めていくために、家庭に支援を呼び掛けける。(学習の手引きの活用、家庭学習頑張り週間、いじめアンケート、人権標語等の取組)</li> </ul>			

<p>○「夢と希望と創造性のあるふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる児童・生徒の育成」の中学校区校教育目標を具現化する本校の取組を推進する。</p>	<p>導入校1年目として、重点目標「言語活動の充実による質の高い学力の育成」を目指し、保幼小中学校の連携を図る。 ・経営・学び・育ちの各部の目標に対応した行動連携、教育内容の充実を図る。(講演、保幼小連携による授業研究と参観交流、土曜活用事業、学年合同行事)</p>	<p>○中学校区で一貫教育プランに基づき、児童・生徒、教職員間の交流ができ、めざす子ども像の共有化が進んだ。 (授業公開、合同修学旅行や保幼小中連携による体験学習の実施、便りの保護者配布) △中学校区の組織と各校の分掌の見直し、更に一貫教育を進めための体制を確立していくこと。(モデルカリキュラムの検証、学年会の機能化)</p>
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>○児童が大切に育てられている児童との実感できる教育環境を保護者、地域と協力、連携していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌に謳われている郷土を知り、郷土を愛する気持ちを育む教育活動を全校で実践する。 (地域人材との出会い、本の読み聞かせ、米・野菜づくり、食育の取組、ふれあい遠足、依連ヶ尾登山)</li> <li>・情報発信を行なう。(学校だより等)</li> </ul>
<p>研修(質の向上)の取組</p>	<p>○府小学校教育研究会協力校として、「創造力と豊かな情操を育成する学習指導と評価の工夫」という図画工作の研究をとおして、本校の指導方法の確立を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師を積極的に招聘し、教職員の専門性を高める研修を積み上げて、指導力の向上を図る。 (府総合教育センター指導主事・市授業力開発講座等)</li> <li>・外部研修の機会を積極的に活用し、研修で学んだことを児童の表現力の向上を図るために実践していく。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善的方向性</p>	<p>① 府小研研究指定3年次の図画工作科の本発表会開催に向けて、基礎学力の向上と表現力の向上を一体化させた授業づくりの研究を積み上げ、その内容を府下に発信していく。</p>	<p>② 丹後中学校区一貫教育の「言語活動の充実による質の高い学力の育成」という重点目標と関連させながら、本校の課題克服に向けた授業づくりを追先していく。更に、組織的な教育活動をとおして、保幼小中の連携と「開かれた学校づくり」を推進していく取組に力を入れていく。</p>
		<p>③ 教育相談活動と連動させた就学指導にも力を入れ、保護者・地域と連携して「安心・安全な教育環境と信頼される学校」づくりを進めていく。</p>

# 平成26年度学校評価自己評価報告書

学校名〔京丹後市立間人小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	① 体をききたえ、主体的に学ぶ子 ② 人を思いやる子 ③ ことばで伝え合う子 ④ ふるさとを知り、ふるさとを愛する子	○文を書く、発言する、話を聞く児童が増えた。 ○指示、指導が入りやすい。 ○学級内、学年間のトラブルが少ない。 ○物かくし、落書き事象等がほとんどなかった。 △思考力、表現力(話す・書く)を付ける。 △あいさつ、発言の声をしつかりと出す。		(1)基礎基本の定着と質の高い学力(言語の力)向上と充実を進める。 (2)表現力とコミュニケーション能力を身に付ける。 (3)小中一貫教育に向けた理解と行動連携を進める。 (4)HP、学校・学級だより等で教育方針や児童の様子を伝える。	
生徒指導	(1)学習意欲の向上をめざす。 (2)全教科を通して言語の力を付ける。 (3)校内研修を中心に学び合う教職員として進める。 (4)「家庭学習がんばり週間」を活用して家庭学習の定着を図る。	(1)児童の考えを引き出し、学び合う授業を研究する。 (2)全教科を通して「書く」「話す・聞く」「読む」力の育成 (3)学期毎に検証テスト等を実施し、既習学習の定着度を図り未習得内容の定着を全校体制で行う。 (4)補充学習の体制をつくり、児童支援の継続化 (5)国語科を中心とした指導形態の工夫及び補充学習で個に応じた指導 (6)「家庭学習がんばり週間」を活用し家庭学習習慣の定着		○「書く」、「話す」ことを大切に児童の意欲を引き出す授業が進められている。 ○「書く」指導を通して、表現力を身に付けた。 ○継続して補充学習を行い学力定着を図ることができた。 ○小中一貫教育行動連携「家庭学習がんばり週間」を通して家庭学習の時間が増えた。 △思考力、活用力を付ける授業づくりが不充分である。 △引き続き家庭学習の内容の充実を図る。	
				○問題事象等が生じた時は、生徒指導部を中心とした組織的に対応し、迅速に問題解決を図ることができる。 ○児童会活動を主体に児童で考え、解決する機会をつくり教職員が支援をすることを大切にした。 ○児童の実態を教職員全体で共有する場面を設定することで、児童、学級間の課題を全教職員で指導する機運がある。 △取組を計画、実施する上で、最後まで継続的にやり切るよう取組を貫徹する指導を行う。 △情報機器への危機管理、児童への使用上の指導について保護者の危機管理の意識を高める。	

健康（体育）・安全	学習や運動に立ち向かえる育成を図る。 (1) 運動に親しむ機会を持ち、運動を楽しみ、運動能力を高める指導を行う。 (2) 情報機器使用に伴う心身に及ぼす影響への指導を行う。 (3) 「食べること、寝ること」を大切に基本的な生活習慣の確立を図る。	(1) 体育科の楽しい授業をめざし、児童の運動への意欲を引き出す。(運動、遊びなど体を使つた屋内外活動を行う) (2) 家庭と連携した情報機器の活用についてルール作り。 (3) 定期的に安全点検を実施し、点検結果の分析、改善に努め、事故の未然防止を徹底する。 (4) 交通事故、防犯等は保護者、地域、関係機関等と社会総がかりで取り組むよう連携を強める。	○「保健だより」、「給食室だより」、HP等を活用して、情報発信に心がけ、家庭との連携が図られている。 ○PTA活動と連携し、交通事故防止、防犯を進め「京都府交通安全協会奨励賞」を受賞する。 ○体を使つた遊びを通して安全意識が高まり、重災害の件数がほとんどなかった。 ○自転車教室（「自転車運転免許事業」）を実施し、安全の意識を高めた。自転車に伴う事故はなかった。 △高学年を中心に就寝時間が遅く、それに伴うゲーム、パソコン等に時間を費やす児童への指導が不十分であった。 △SNSへの危機管理及び指導についてPTA、家庭との連携が必要である。
		(1) 小中一貫教育への意識を高め、実践する。 (2) 自校の研究と関連させ、成果を感じる。	(1) 小中合同授業を通して児童生徒の指導上の課題を共通認識、授業改善の研究を進める。 (2) 小中の共通課題である言語力の育成について本校の「書く」指導の研究と関連させる。
小中一貫教育への取組	(1) 小中一貫教育への意識を高め、実践する。 (2) 自校の研究と関連させ、成果を感じる。	(1) 「めざせ！あいさつ京丹後ー！！」をスローガンにあいさつのできる学校をめざす。 (2) 昔の遊び、古典に親しむことを教育活動に取り入れる。 (3) 音楽、演劇、古典芸能に秀でた方を招聘し、文化に接する機会を作る。	○「あいさつ点検」、「あいさつハイタッチ」等粘り強く取組を行い、あいさつができる児童が確實に増えた。 ○運動面は熱心な地域であるが文化的な脆弱さを感じる。まずは文化に接する機会を土曜活用、学校・PTA行事に取り入れた。 △文化の良さを引き続き取り入れ、体験させ発信する。
		(1) あいさつはコミュニケーションの入り口としてあいさつの取組を行う。 (2) さまざまな文化に接し、豊かな心の育成を図る。	○PTA方針「参加するPTA」の具体的な取組の中で行事等へのPTAの参加が増えた。 ○ボランティア、「守る会」、地域交番と連携し、諸行事を計画、実施し、交通事故、防犯の意識が高まつた。 △「小中一貫教育」、「土曜日活用」に向けた内容づくりを行う。
特色ある学校づくり	(1) 地域や保護者と連携し児童の健全育成を強める。 (2) PTAの積極的、意欲的な参加を促す。	(1) 学校だより、HPを活用し情報発信を行う。 (2) 学校支援ボランティア等を積極的に活用し、地域人材・資源から学び、学びの機会を広げる。 (3) 園・小・中学校と連携し、町の子どもの育成の視点を持つ。	○PTA方針「参加するPTA」の具体的な取組の中で行事等へのPTAの参加が増えた。 ○ボランティア、「守る会」、地域交番と連携し、諸行事を計画、実施し、交通事故、防犯の意識が高まつた。 △「小中一貫教育」、「土曜日活用」に向けた内容づくりを行う。
		(1) 基礎基本を踏まえ、思考、判断、表現の力が付く授業づくりを進める。 (2) 児童の主体的な活動を通して、意欲と自己肯定感を高める。 (3) 小中一貫教育の価値、良さ、やりがいを実感し、意欲を高める。	
次年度に向けた改善の方向性			

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
教育課程 学習指導	・「夢と希望を持ち、ともに学び合う宇川の子の育成」～元気で、明るく、楽しい学校～に努めるとともに保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。  △コミュニケーション能力をどう育てるかについての研修を深め、一層の充実を図る。	○宇川の子の実態を全教職員で出し合い、課題を整理し、共通理解のもと日常の指導や授業、生徒指導等に生かすことができた。  △コミュニケーション能力をどう育てるかについての研修を深め、一層の充実を図る。	・ドリルタイム、適切な家庭学習、回復指導を継続的に実施し、基礎基本の徹底を図る。 ・コミュニケーション能力を育てるための話し合い活動の場面、「聞く」・「話す」力を育てるための発達段階に合わせた指導方針を確立する。 ・学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等とともに、学力実態を把握・分析し個々の取組課題を明確にする。 ・家庭学習の習慣化・充実についてPTA総会、学級懇談会等の場で活用について説明をし、理解と協力を求める。	○毎週火曜日には、学校支援ボランティアの協力を得て放課後補習を実施し、回復指導に努めることができた。 ○「宇川小学校」これだけは「授業編」(教師用)を作成し、学習準備、話しか方、聞き方等について一貫した指導が継続的に行えるようまた、「宇川小学校」かしこくなれる「約束」(児童用)を作成し、これだけは授業編と併せて指導に生かすことができた。 △「コミュニケーション能力」育成のための指導と評価の一體化を図るための研究を進める。	(1) 基礎・基本の徹底と指導力の向上 (2) 保・幼・小・中の連携による小中一貫教育の推進 (3) 教育相談、特別支援教育の充実と関係機関との連携 (4) 家庭・地域と連携した児童の安心・安全の確保
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立を目指す取組 ・児童理解及び教育相談活動の充実 ・生徒指導の三機能を生かした学級経営の充実	・定期的に生活の見直しのための点検を行い、課題を持つ児童への指導及び家庭との連携を図る。 ・いじめは絶対に許さないという強い認識に立つたいじめ防止に努める。 ・配慮を要する児童に対する共通理解に基づく指導、支援と保護者や関係機関と連携した組織的な指導を進める。	○日常生活の見直しのための点検を行い、課題を持つ児童への指導及び家庭との連携を図る。 ○「体罰防止の手引き」「いじめ防止基本方針」等を活用した校内研修を実施し、教職員の意識向上に役立てた。 △生活の見直しのため、「生活点検（元気貯金）」を実施したが、課題のある児童の保護者の協力・理解を得るための働きかけの工夫が必要である。	○日常的に児童の様子が交流できた。課題に対しても迅速に組織的に対応することができた。 ○「体罰防止の手引き」「いじめ防止基本方針」等を活用した校内研修を実施し、教職員の意識向上に役立てた。	○遭難訓練、交通安全教室、非行防止教室等を計画的に実施し、安心安全に係る取組を推進することができた。 ○中学校の栄養教諭を講師に食に関する指導を学期に1回、また保護者対象の講演会を開催し、意識の向上を図った。 △体力向上のための「京の子ども元気なからだスタンダード」等資料及び教材の実践と研修の機会を一層充実させる。
健康(体育)・安全	・安全指導、安全管理の徹底 ・健康な生活づくり ・体力づくり	・避難訓練、交通安全教室、非行防止教室等の計画的な実施と関係機関との一層の連携を図る。 ・心とからだの教育の計画的な実践及び感染症の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用防止等の指導の充実を図る。 ・朝マラソン等を通して体力づくりと教科体育の指導の充実 ・望ましい食習慣形成のための「食に関する指導」の充実を図る。			

<p>・保幼小中の連携を一層進め、就学前から中学校卒業までを見通した教育の推進</p> <p>・中一ギャップ、小一プロブレムへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小一プロブレムに対応するためのスタートカリキュラムをもとにした保小の連携を進める。</li> <li>・授業参観や公開授業、出前授業などを通し、教職員間の実践的交流、研究協議等を進め、小中一貫教育への意識の向上を図る。</li> <li>・部活動体験、合唱祭、体育祭などへの参加及び合同の取組を進め。</li> <li>・三校合同による修学旅行や社会見学等を通して、小小連携を一層進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保幼小連携研修会を開催し、スタートカリキュラムの見直しや入学説明会で保護者への啓発が進んだ。</li> <li>○汽水域（5・6・中一）の公開授業や事後研究会等を開催し、小中それぞれの指導のあり方を探る機会が持てた。</li> <li>○部活動や授業の体験を実施し、中学生との交流、中学校への希望や夢を育む機会になつた。</li> <li>△中学校からの出前授業が実施できなかつた。</li> <li>△担任会等の設定がやや不十分で、やや意思の疎通を欠く場面もあつた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配慮を要する児童に対して、保護者との懇談を通して、具体的な指導内容について理解を得ながら指導を進めることができた。</li> <li>○特別な支援が必要な児童のアセスメント表、個別の指導計画等をもとに実践交流ができた。また、児童の見方や手立て等について共通理解することができた。</li> <li>△来年度の特別支援学級閉級に伴い、配慮を要する児童への一層きめ細かな指導の手立てを講じること、保護者との丁寧な連携をとすることが必要である。</li> </ul>
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童個々の発達課題や生活実態の的確な把握と課題に即した適切な教育課程の編成</li> <li>・基礎学力の充実と自立力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者及び関係機関との密接な連携を重視し、適切な修学の指導や進路指導の充実に努める。</li> <li>・児童の実態に即した個別の指導計画、支援計画の作成と実践を進める。</li> <li>・通常学級における特別支援教育のあり方やユニバーサルデザイン授業等についての研修を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校安全に係る研修に参加し、復講習の実施や安全計画の見直しにつながる意識の向上が見られた。</li> <li>○全校児童対象にした非行防止教室を実施し、発達段階に応じた適切な指導を進めることができた。</li> <li>○登下校時の安全確保のために安全ボランティア会員の見守り活動及び警備員が複数配置され、日々安心して徒歩通学ができた。</li> <li>△保護者、地域住民の信頼に応える立場にあることを自覚するためのコンプライアンスハンドブック等を活用した研修をくり返し実施し徹底を図ること。</li> </ul>
<p>危機管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安心・安全のための組織体制の構築</li> <li>・危機管理に係る教職員の意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画、危険等発生時の対処マニュアルの見直し、運動具の整備と毎月の安全点検を徹底する。</li> <li>・交通安全指導の徹底（一斉下校、登下校時の見守り、校外学習時など）を図る。</li> <li>・避難訓練（火災・風水害・地震及び津波）、交通安全教室、非常防災教室等の計画的な実施と関係機関との連携を進めている。</li> <li>・「体罰防止の手引き」や「いじめ防止基本方針」等に基づいた教職員の意識向上のための研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後中学校区小中一貫教育導入準備校としての最終年に関わって、教職員に分かりやすく取組課題等を提示し、共通理解を図りながら推進する。</li> <li>・特別支援学級の閉級に伴い、配慮を要する児童へのきめ細かな指導体制及び内容の充実、保護者・関係機関等との連携を図る。</li> <li>・へき地の特性を生かした、地域により密着した特色ある教育活動を地域とともに作り上げていくために、地域の人材や施設設備等の有効活用を図る。</li> <li>・安心、安全のための取組を再点検し、地域や児童の実態に即した取組となるようにする。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善性</p>			

# 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	学力の充実向上を重要な教育課題として位置付けて取り組む。 (1) 学習内容の定着に向けた取組 (2) 教師の授業実践力の向上に向けた取組 (3) 学習習慣(家庭学習習慣)の確立を目指した取組	(1) 基礎的な学習内容の定着に向けて取り組む。 ・個々の児童の学力課題を明らかにし、全校で共有化した取組を進める。 ・朝のチャレンジタイム、星読書の時間を設定する。 ・補充学習への支援を組織的に行う。 (2) 授業実践力の向上に向けて取り組む。 ・重点研究として、算数科の授業研究を進める。 ・学習指導強化月間を中心とした日々の授業実践力の向上を図る。 (3) 家庭と連携して、学習習慣の定着を図る。 ・具体的な取組内容の理解や情報発信に努める。	(1) 目指す授業の共有化が進み、基礎学力の充実が図られた。 ○組織的な運営や課題の共有化が充実してきた。 △基礎学力のさらなる充実、学習意欲の向上に向けた取組を家庭と連携して進める。 △開かれた学校づくり、特色ある学校づくりの充実のためにも保護者・地域との連携をさらに深める。	○算数科を中心にはじめ、さらに思考力・判断力・表現力を充実させる学習活動の推進 (1)基礎基本の定着を図り、さらに思考力・判断力・表現力を充実させる「心の教育」の推進による、生きる力の育成 (2)豊かな人間性を育む「心の教育」の推進による、生きる力の育成 ○信頼される学校づくりの推進 (3)信頼される学校づくりの推進 (4)小中一貫教育を見通した、様々な連携の推進
生徒指導	友達関係づくりや規範意識の向上を目指して取り組む。 (1) コミュニケーション力を高め良好な友達関係を育成する。 (2) 規範意識を高める。 (3) 不登校やいじめの未然防止に努める。	(1) 掃除、給食など、年間を通じた異年齢集団活動を充実させ、リーダー性やコミュニケーション力の育成を図る。 (2) 肯定的な評価を軸に、規範意識を高め、自己肯定感(有用感)を育てる。 (3) 事象の早期発見・早期対応を図ると共に、全教職員による組織的な指導を進める。 (4) 教育相談部を中心に、家庭や関係機関との連携を密にし、安定した登校を実現する。	○異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の発揮と共に学年を超えた良好な関係を築くことができた。 ○事象に対する早期対応を基本に、個別の対応と組織的な対応等状況に応じて行うことことができた。 ○丁寧な関わりにより不登校傾向児童の登校状況が改善された。 △判断力をより一層身につけさせると共に、規範意識や自尊感情を育てる指導を今後も重視し取り組んでいく。	

<p><b>健康（体育）・安全</b></p> <p>元気で規則正しい生活ができる児童を育成する。</p> <p>(1) 主体的に運動しようとする児童を育てる。</p> <p>(2) 事故の未然防止や、安全確保に対する意識を高める。</p>	<p>(1) 朝の体力づくりを、年間を通して実施する。 ・朝マラソン、朝縦跳びの取組。 ・「京の子ども元気なからだスタンダード」の継続した取組 (2) 望ましい生活習慣の確立に向けた取組をする。 ・さわやか点検を各学期に実施 (3) 登下校の安全指導の徹底を図り、地域のボランティア等と連携した取組を進める。</p>	<p>○昨年に引き続き「元気なからだスタンダード」の取組や朝の体力づくりの成果を校内マラソン、市駅伝大会で発揮することができた。</p> <p>○さわやか点検を学期のスタートに合わせて設定し、家庭の協力を得ながら取り組み、起床・食事・排便などで成果を上げた。</p> <p>○ボランティアと連携し安全な登下校ができた。</p> <p>△危険を予知する力や判断する力、安全や健康を守る意識を高める。</p>
<p><b>小中一貫教育への取組</b></p> <p>(1) 弥栄学園小中一貫教育のねらいや内容の理解を深める。 ・推進会議の提起内容を理解し、積極的に関わろうとする。 ・校内研修での共通理解を意図的に進める。</p> <p>(2) 具体的な連携や交流に積極的に関わる。 ・他校種研修や授業研究・公開に進んで参加する。</p>	<p>○学園としてのねらいや提起内容を理解し、10年間を見通した指導の一貫性について理解を深めることができた。</p> <p>○進んで取組に関わろうとし、特に中学校との連携を強めようとする意識が高まった。</p> <p>△中学校の実態や指導についての理解がまだ十分ではなく、中学校から学ぶことに力を入れていく必要がある。</p>	
<p><b>研修</b></p> <p>教師の指導力量を向上させることのための研修を充実させる。</p> <p>(1) 「学力の充実・向上」の取組とあわせ、教師の授業実践力の向上を図る。</p> <p>(2) 校内研修の充実</p>	<p>(1) 診断テスト等の結果分析を通して指導方法についての研修を深める。</p> <p>(2) 算数科を中心とした教材分析や指導方法、授業の改善につながる研修を進める。</p> <p>(3) 学習指導強化月間等を活用し、日常的に授業実践力の向上に努める</p>	<p>○重点研究の取組や学習指導強化月間などで、授業実践力の向上を図ることができた。</p> <p>○総合教育センター等の講座で学んだことを復講習する機会を設定することで学びが深まった。</p> <p>△研修して得た知識を実践まで広げることができなかつた。</p>
<p><b>特色ある学校づくり</b></p> <p>本校の伝統や地域の財産に支えられた取組を充実させる。</p>	<p>○収穫祭に向けた、もち米作り、餅つき等の取組を地域・PTAと一緒に取り組むことができた。</p> <p>○教育活動の中に異年齢集団活動による取組を重視していくことで全校児童の関係づくりがさらに進んだ。</p> <p>△地域と連携した本校ならではの取組をさらに充実させていく。</p>	
<p><b>次年度に向けた改善の方向性</b></p> <p>(1) 学力の充実・向上に向け、日々の授業実践力の向上、習熟・定着を図る取組の充実や家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>(2) 気持ちの良くなるあいさつをはじめ、豊かな人権感覚を養う取組の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 小中一貫教育の推進とあわせ、弥栄小学校と連携した取組を進める。</p> <p>(4) 家庭・地域との連携をより一層深め、信頼される学校づくりをさらに進める。</p>	<p>(1) 米作り、収穫祭（吉野フェスタ）等、豊富な地域の人材や資源を活用した本校独自の取組を進める。</p> <p>(2) 異年齢集団による当番活動（チーム給食、チーム掃除）の取組を充実させる。</p>	<p>○次年度に向けた、習熟・定着を図る取組の充実や家庭学習の習慣化を図る。</p>

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	<p>(1) 基礎的・基本的な内容の定着や言語活動を重視した取組を通して、活用力(思考力、判断力、表現力等)を育成する指導と、自己肯定感を育む学級経営や児童会活動を通じて児童同士の心が繋がる好ましい友人関係の構築を進めるとともに、規範意識の醸成を図る。</p> <p>(2) 自己肯定感を育む学級経営や児童会活動交流し、早期に豊かな交友関係を構築させることが最重要課題と言える。</p> <p>△発達障害(ボーダー含む)児童もあり、これまでとは違った環境の中で、新たな問題も起こりやすい。そのため、ユニバーサルデザインに心がけるとともに、複数の目で些細な変化を見逃さず、保護者と十分に連携しながら丁寧な対応が必要である。</p>	<p>○再配置計画による交流学習により児童の交流ができた。 ○小小連携・小中連携・交流による学力充実に係る指導法研究を推進してきた。</p> <p>△それぞれの学校文化の違いがある4校の児童がスムーズに交流し、早期に豊かな交友関係を構築させることが最重要課題と言える。</p> <p>△発達障害(ボーダー含む)児童もあり、これまでとは違った環境の中で、新たな問題も起こりやすい。そのため、ユニバーサルデザインに心がけるとともに、複数の目で些細な変化を見逃さず、保護者と十分に連携しながら丁寧な対応が必要である。</p>	<p>(知) かしこく 知識と技を磨き活用する子できる・分かる喜びを感じ、学びを広げる児童の育成。</p> <p>(徳) やさしく、自他の良さを知り、共に伸びる子自己肯定感を持ち、仲間や社会との絆を大切にする児童の育成。</p> <p>(体) たくましく 身体を鍛え、何事もやりぬく子継続すること大切にし、自ら進んで活動し汗することから逃げない児童の育成。</p>	<p>○昼夜後のドリルタイムに計算ナビツールを系統的に取り組み基礎学力の定着が図れた。</p> <p>○計算の速さと正確さを身につけさせるため月1回全校一斉にコンテスト形式で取り組んだ。(計算ダービーの取組)</p> <p>○大人数の利点を活かし、グループ学習での練りあいを通じて考査させることができた。</p> <p>△校内授業研究会は事前研究・事後研究を計画的に実施したが、研究内容が教員の実態に合わず、効果が得られなかつた。</p> <p>△時程にゆとりがなく、職員の多忙感につながった。</p> <p>○特別活動・生徒指導などの基幹分掌間連携により、児童実態に即した月目標を設定し効果的な取組が展開できた。</p> <p>○異年齢活動を充実させ、リーダー育成と自己肯定感の醸成により学校全体の規範意識を高めることができた。</p> <p>○行事の効果的な演出により成就感・成功体験を味わわせることができた。</p> <p>△新設校として、全教職員の一一致した指導により、概ね交友関係の醸成はスマーズであったが、後半一部の児童の課題が顕在化してきている。</p> <p>△遠方通学により下校時刻を早めたが、児童と向き合う時間の確保が十分にできず丁寧な指導支援に課題を残した。</p>	
生徒指導	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行う。 2 言語活動を重視した活用力を育てる授業を目指す。 3 わかる・できる授業により自己肯定感を醸成する。 4 家庭と連携し、学習習慣の確立に努める。</p> <p>1 地域との協働による取組を充実させ自己肯定感・自己図る。 2 集団のルールやマナーを醸成する。 3 大切にさせ規範意識を醸成する。 3 互いに切磋琢磨する良好な関係を育てる。 4 不登校・いじめ等未然防止に努める。</p>	<p>1 有用感を高める。(地域に包み込まれた感覚) 2 情報交流を密にして、カウンセリングマインドの手法により、課題に対して早期対応を図る。 3 分掌間連携を通して積極的な生徒指導を機能させる。 4 家庭と連携しルールや決まりの徹底により規範意識を醸成する。</p>	<p>1 有用感を高める。(地域に包み込まれた感覚) 2 情報交流を密にして、カウンセリングマインドの手法により、課題に対して早期対応を図る。 3 分掌間連携を通して積極的な生徒指導を機能させる。 4 家庭と連携しルールや決まりの徹底により規範意識を醸成する。</p>		

健康（体育）・安全	<p>1 家庭との連携を強化し、健康新しをもつて生活できる児童を育成する。</p> <p>2 朝マラソン・綱跳び等の体力作りに取り組ませ、体力向上と継続すること大切にし、自ら進んで活動し汗することから逃げない態度を育成する。</p> <p>3 安全点検の実施。</p> <p>4 安全ボランティアとの連携により、登下校の安全を確保する。</p>	<p>1 家庭と連携し、基本的な生活習慣を身につけさせ、見通しをもつて生活できる児童を育成する。</p> <p>2 マラソン・綱跳・運動会など体育行事を特別活動と連携して取り組み、意欲を高めさせ継続して取り組まることができる。</p> <p>3 月1回定期的な安全点検を実施し、校舎設備・遊具、教材の安全性についてチエックできた。</p> <p>△危険回避・危険予知能力育成などの児童の主体的な学びについて研究する必要がある。</p>	<p>○年間を通して地震・火災・不審者・ネットトラブル・警報時の引き渡し訓練など外部人材を活用し、危機意識を高められた。</p> <p>○マラソン・綱跳・運動会など体育行事を特別活動と連携して取り組み、意欲を高めさせ継続して取り組まることができる。</p> <p>○月1回定期的な安全点検を実施し、校舎設備・遊具、教材の安全性についてチエックできた。</p> <p>△危険回避・危険予知能力育成などの児童の主体的な学びについて研究する必要がある。</p> <p>○弥栄学園構想の研究体制組織を確立し、次年度からの具体的な取組の体制が整えられた。</p> <p>○接続の課題（小1プロブレム中1ギヤップ）の課題にについた、校種間の連携と異年齢交流体験を通して実践でてきた。</p> <p>○自己有用感の醸成に向けた10年間の指導プロトコルを交換し発達段階に即した一貫した方向性が確認できた。</p> <p>△保護者・地域への啓発が不十分であった。</p>
小中一貫教育への取組	<p>1 目指す子ども像を実現させする弥栄学園構想組織を確立する。</p> <p>2 課題に即した実効性のある研究を推進する。</p> <p>3 地域に見える取組にする。</p>	<p>1 発達に即した効果的な学習スタイルの確立を目指し研究を進めます。</p> <p>2 連携行事を通じて児童生徒の交流による自己肯定感の醸成を図る。</p> <p>3 地域の資源を活用し、地域と協働した取組を実施する。</p>	<p>○地域の自治組織と連携し、総合的な学習の時間・各教科等で地域資源を活かした体験的な学習が充実し、また、地域の方々の参画で豊かな良さをアピールすることができる大いなる集団での教育効果を学校便り・各種の通信・HPにより発信できた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 学校の情報を積極的に公開する。</p> <p>2 地域資源を生かした豊かな体験活動を充実させる。</p>	<p>1 各区の自治組織と連携を密に、地域のニーズにこたえる。</p> <p>2 HPの更新を定期的に行う。また、PTA会議、懇談会等で積極的に情報の公開を行う。</p> <p>3 学校支援ボランティアや地域の人材を活用した取組の充実を図る。</p>	<p>○地域の自治組織と連携し、総合的な学習の時間・各教科等で地域資源を活かした体験的な学習が充実し、また、地域の方々の参画で豊かな良さをアピールすることができる大いなる集団での教育効果を学校便り・各種の通信・HPにより発信できた。</p> <p>○地域の支援ボランティアの協力により登下校の安心安全が確保できました。</p> <p>○地震・火災・不審者・情報ネット等多様な危機に対する計画的な訓練が実施できました。</p> <p>○コンプライアンスハンドブックを活用し、具体的な事例を想定した研修を行った。</p> <p>△職員の不適切な言動があるトランブルが発生するが、保護者・児童に対して信頼できる対応ができない。</p>
危機管理	<p>1 かけがえのない命を第一に児童の安全確保に努める。</p> <p>2 全職員の危機管理意識を高める。</p>	<p>1 危険予知・危機回避能力を高めるため、関係諸機関と連携した訓練を計画的に行なう。</p> <p>2 教職員に対し危機管理意識の徹底を図るため、研修を充実する。</p> <p>3 危機管理に係るタイムリーな情報提供を行い、情報を共有する。</p>	<p>○地域の支援ボランティアの協力により登下校の安心安全が確保できました。</p> <p>○地震・火災・不審者・情報ネット等多様な危機に対する計画的な訓練が実施できました。</p> <p>○コンプライアンスハンドブックを活用し、具体的な事例を想定した研修を行った。</p> <p>△職員の不適切な言動があるトランブルが発生するが、保護者・児童に対して信頼できる対応ができない。</p>
次年度に向けた改善の方向性		<p>○市のモデルカリキュラムを活用し弥栄中学校区小中一貫教育（弥栄学園構想）に基づく10年間の教育課程の編成を進める。</p> <p>○授業力向上のための理論研修を進め、思考過程を大切にした課題解決型の授業を目指す。</p> <p>○小規模校での経験しかない教員の課題克服のため多人数学級での学級経営力を高める研修を充実し人材育成を図る。</p>	

# 平成26年度学校評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	(1) 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。  (2) 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。	○単元全体を通して言語活動を位置付け、単元ゴールを明らかにした授業を仕組むことにより児童の学習意欲が高まった。  ○コミュニケーションを重視した異年齢集団活動や学校活動を取り組むことにより児童の友人関係が安定してきた。  △言語活動や発言の根拠を明らかにした学び合いのある授業を通した活用力の育成  △マナーを守り、日常生活をやり切る。  △児童同士の個性の尊重と仲間意識の醸成	(1) 様々な手法を用いて、根拠をもとに自分の考え方を説明・表現する力を向上させる。  (2) マナーを守って行動し、相手を思いやる心を育てる。  (3) 目標の実現や日常生活の自分の役割について継続して取り組む強い心と体を育てる。	○絵や図、表などに表したり、具体物や半具体物を用いて操作したりする学習をし、児童の興味・関心が高まつた。  △教師の発問は、今後も工夫が必要である。  ○自分の考え方を説明させせる場面を設定し、児童の学び合いが深まつた。  △個に応じた指導は、ヒントカードなどの資料が十分に準備できなかつた。  ○家庭学習がんばり週間は、中学校区で統一して行つた。  ○朝読書は、集中して読書をしている学年が多い。	
生徒指導	1 リーダーの育成や好ましい友人関係の構築を図る。  2 規律の確立及び自律心の育成を図る。  3 不登校・いじめの未然防止を図る。	1 学級活動や児童会活動では、児童が主体的に動く活動を組織したり、肯定的な言葉かけや評価をしたりする。  2 人間関係を繋ぐ言葉としての挨拶に取り組む。  3 久美生活ルールを確立し統一した指導を行う。  4 不登校等の未然防止について、複数で対応したり、記録を取ったりするなど組織的に取り組む。	○異年齢集団活動を取り組む中で6年児童の主体性やリーダー性が高まつた。また、良好な友人関係が深まつた。  ○70%の児童が、自分から、どちらかといえば自分から挨拶をしている。  ○廊下歩行が定着しつつある。  ○気になる児童について組織的に対応できた。		

<b>健康（体育）・安全</b> <p>1 学校内外における事故防止と安心安全体制の確立を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>3 危機回避能力を育成する。</p>	<p>1 学校保健安全計画に基づいた保健指導を行いう。</p> <p>2 入美つ子見守り隊と連携した取組を行う。</p> <p>3 生活点検を学期1回実施し児童の実態を把握するとともに保護者への啓発を進める。</p> <p>4 事故災害の実態について共通理解を行い指導に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健指導は、保健便り等を活用して計画的に実施できた。</li> <li>○見守り隊会議を学期1回行い、連携をした取組ができた。</li> <li>○学期初めに生活点検を実施した。「定着している。」は約70%である。</li> <li>○日本スポーツ振興センターかかる怪我が約1/3に減少した。</li> </ul>
<b>小中一貫教育への取組</b> <p>1 中学校区の課題解決に向けた連携した取組を進める。</p> <p>2 保護者や地域への啓発を行う。</p>	<p>1 中学校区の小中学校共通指導事項を教育活動に位置付けて行う。</p> <p>2 中学校区で授業研究を行い、指導方法等について共通理解を図る。</p> <p>3 中学校区の各部会の活動や取組を会議の中で報告し、共通理解を図りながら組織的に情報公開を行い、啓発を進める。</p> <p>4 様々な場面で積極的に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導、生徒指導の中で取組を進めた。</li> <li>○3回の授業研究を行い、中学校の教員は全員参加をした。</li> <li>△取組が部内にとどまることが多く、成果の波及等について共通理解を図るまで至らなかつた。</li> <li>○PTA総会や学校便り、HPなどを通して啓発を進めることができた。</li> </ul>
<b>特別支援教育</b> <p>1 個別の指導計画を活用し、個に応じた支援方策の充実を図る。</p> <p>2 障害のある児童（人）への理解と認識を深め、正しい行動ができるようにする。</p>	<p>1 授業参観等を計画的に行い、校内委員会等で支援方策について検証・改善を行う。</p> <p>2 保護者との相談を重視し、家庭と連携しながら指導を進める。</p> <p>3 目標を明確にした障害に対する理解教育を学年に対応じて計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画を基に授業参観を行つた。その後、校内委員会と担任とで支援方策等について検討し、改善を図ることができた。</li> <li>○学年には応じた理解教育は、計画通りに実施できなかつた。</li> <li>△学年には定期的に更新でき、アクセス数も増えた。学校便りは定期的に発行できた。</li> <li>○アンケート結果や学校関係者評価会議の意見を学校改善に生かすことができた。</li> <li>○様々な形でボランティア、地域の人材、物的資源を活用できた。（実人数69人、実日数50日）</li> <li>○環境シンポジウムに4年生が参加し発表した。</li> </ul>
<b>開かれた学校づくり</b> <p>1 家庭・地域社会との連携を図りながら、教育活動の推進、健全育成に努める。</p> <p>2 地域を生かした豊かな体験活動の充実を図る。</p>	<p>1 HPの更新を定期的に行う。また、PTA会議、懇談会等で積極的に情報の公開を行う。</p> <p>2 保護者や関係機関の方々に参観の機会を多く設け、外部アンケートや各種会議を行い、学校運営の改善に生かす。</p> <p>3 学校支援ボランティアや地域の人的・物的資源を活用した取組の充実を図る。（クラブ活動、学習支援、総合的な学習の時間等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点研究を核にして、基礎的・基本的な内容の確実な定着と表現力・思考力・判断力等の活用力を高める授業づくりを行う。そのためには、言語活動を重視し思考や認識が深まる指導方法の研究を行う。</li> <li>○児童の主体的な集団活動を通した好ましい友人関係の継続と生活ルールやマナーの一層の向上及び規範意識の醸成</li> </ul>

## 平成26年度学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立高龍小学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設校として教育条件整備に努め、再配置して良かったと実感できる学校づくりを進める。</li> <li>児童に知・徳・体をバランスよく定着させる。</li> <li>教職員評価と学校評価を活用し、教職員の資質向上と組織的・協働的な教育活動の推進を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の基礎基本である「読み・書き・計算」を徹底し、繰り返し学習を取り入れた学習を意図的に行う。</li> <li>学習のめあてを持たせると共に肯定的な評価を積み上げながら学習意欲を高める。</li> <li>算数科を通して「課題解決型学習」を研究内容として、論理的に思考を考えを整理し、分かりやすく説明する力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設校を創造することをテーマに、新しい高龍小学校の伝統を教職員と児童で創る。</li> <li>学習意欲を喚起する手立てを工夫すると共に、確実な基礎学力の定着と活用力の充実を図る。</li> <li>小中一貫教育構想を視野に入れた小中連携教育を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し学習と課題解決型学習の指導バランスを学年間で考慮しながら組織的・体系的に指導できた。</li> <li>○校内研究授業や小中連絡会研究授業の中で、課題解決型学習やユニバーサルデザインを目指した授業に取り組めた。</li> <li>△高学年は、放課後のドリル学習の時間確保が難しかった。今後、肯定的な評価を加えることで、授業と家庭学習(宿題)との有機的な関連を図つていく研究が望まれる。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営、児童会活動の充実を図る。</li> <li>目標達成に向け、粘り強く取り組む意識を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的な活動や体験活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図ると共に、存在感や充実感のある学校生活が送れるように指導する。</li> <li>年間を見通した取組の中で、児童実態をもとに児童目標・指導目標を運動させ繋げていく。</li> <li>自分の意見が言いやすい雰囲気を醸成する学級経営に努める。そのためにも、児童相互、児童と担任相互の深い信頼関係に基づく人間関係づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の実態をもとに、生徒指導部が中心となり生活目標を設定し、規範意識、場に応じた言葉づかい、挨拶の意識の高まりが図れた。また、「思いやる心」「挑戦・継続」「挨拶・返事」「意欲」を教育活動の中核に位置付け取り組むことができた。</li> <li>○特別活動における話し合い活動や学級活動の指導の系統性を明らかにすることができた。</li> <li>○児童及び学級課題への対応として、生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部門で迅速で組織的な対応ができた。</li> </ul>		

<p><b>健康（体育）・安全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着を図る。</li> <li>・健康な体づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に生活をコントロールする力を付けるために、保護者と連携し、生活点検（すつきり点検）及び「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を行う。</li> <li>・風邪やインフルエンザ等に罹患しないように、自ら考え、見通しを持って予防に心がけるように指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自ら主体的に生活時間をコントロールすることを意識できる児童が増えた。</li> <li>○意識して手洗い・うがい等ができる児童が増え、結果として風邪等による欠席児童が減った。</li> </ul>
<p><b>小中一貫教育への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久美浜中学校区の児童・生徒の課題とともに、久美浜中学校区の特色ある研究構想を立てて、各校の研究内容をリンクさせて、研究の焦点化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上について、教科における基礎・基本を明らかにし、授業のユニバーサル化を研究して基礎学力の向上に繋げると共に、意欲的に学習に向かうための指導の在り方を研究する。</li> <li>・不登校の解消に向けて、小中学校間のスムーズな接続を行なうための行動連携を行い、発達段階に応じて自己決定力やコミュニケーション力を身に付けさせる。また、自尊感情を高める指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△授業研究会を汽水域に絞って行ったが、今後はそれ以外の学年の担任会も機能させて、指導の系統を研究することが必要である。教科を算数・数学に絞つて研究を進めってきたが、中学校では数学担当の教師に負担がかかるため、中学校での研究を全体のものになるよう考えていく必要がある。</li> </ul>
<p><b>危機管理</b></p>	<p>・児童の安全・安心を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「不審者」「自然災害」「交通事故」等の災害に対する危機意識を教職員が持ち、児童があらゆる場面を想定してシミュレーションできるように事前指導を行う。</li> <li>・新しい通学路の安全点検と安全指導を定期的に行う。</li> <li>・「地震・津波」を想定した避難訓練を実施して、児童や保護者、地域の危機意識を醸成する。</li> </ul>
<p><b>開かれた学校づくり</b></p>	<p>・地域との連携の充実を通して、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPや学校だよりを通して地域・保護者への発信を積極的に行なう。</li> <li>・地域行事に積極的に参加する。</li> <li>・日常的に学校開放を行い、学校行事には積極的に呼びかけを行う。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けた改善の方向性</b></p>	<p>・生活を主体的に学習に向かうことができる児童の育成に向けて、指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実な基礎学力の定着と活用力の充実（課題解決型学習）、家庭学習と授業の連動を図る。</li> <li>・一つの教科にこだわらず、京丹後のモデルカリキュラムも活用しながら課題解決型学習の理解を深め実践する。</li> <li>・中学校区の小中連携事業と本校の重点研究の方向性の関連をより明確にし、久美浜町小中一貫教育構想（平成28年度）の充実に繋げる。</li> <li>・教員の資質向上（学級経営を基盤とした授業実践力の充実）を図る。</li> </ul>

## 平成26年度学校評価自己評価

学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	前年度の成果と課題	
			本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
教育課程 学習指導	ふるさとを愛し 意欲的に学び 優しい心をもち 根気強く努力する子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童の仲の良い関係を一層育み、一体感を高め、自分たちで課題を解決し合う力を伸ばす。</li> <li>② 授業づくり、学級づくりの一体化、家庭学習の充実。それに伴う学力向上。</li> <li>③ 児童自らが安全を意識した行動がとれる。</li> <li>④ 保護者、地域への情報の公開を積極的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 進んで考え、学び合う力を育てる。</li> <li>② みんな仲よく、力を合わせて活動する力を育てる。</li> <li>③ 最後まで根気強く、頑張り合う力を育てる。</li> </ul>	
生徒指導	「みんなでつくりういきいきと楽しいかぶと山小学校」を合い言葉にし、具現化を図る。いごこちのよい学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いいごこちのよいクラスにするためのアンケート」を年3回（4月、7月、12月）実施し、教育活動を進める際の重要な資料とし、学級経営、学校経営にいかす。</li> <li>・「ルールを守ろう」、「友達を増やそう」の目標を年間を通して設定し、企画委員会で、各分掌の動きに關係づける調整をする。</li> <li>・「ルールを守ろう」の象徴的な取組として廊下歩行と下校時の集合の仕方の指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若年層の教職員が多い中、指導と評価の一体化の重要性を実感させるなど指導の基本について研修できた。</li> <li>○計算力、漢字力の向上を図ることができた。</li> <li>○△年度始めの学力診断テストと比べ、年度末のDRTテストでは半数の項目で平均比が向上した。しかし半数の項目は降低了。</li> <li>○全教職員で全校児童を理解し、同一の方向で、肯定的評価、規範意識を身に付けさせる指導に努め、児童が「学校が楽しい」と思う状況をつくりだせた。（アンケート90%）</li> <li>○チーム給食やチーム掃除等異年齢活動をすることで、児童同士の人間関係を深めることができた。</li> <li>○教職員の共通理解のもと同じ方向性の指導をすることができ、規範意識を高めるために成果があつた。しかし継続して指導する必要がある。</li> <li>○体力向上を図ることができる、運動会、マラソン大会で練習の成果を発揮できた。</li> <li>○見守りボランティアさんと連携することで、登下校時に配慮すべき点について、早期に改善することができます、安全確保を図ることができた。</li> <li>○規則正しい生活リズムに戻すことができた。</li> <li>△全員出席の日数が13日（昨年 年間で38日）</li> </ul>	
健康（体育）・安全	健康・体力の増進を図る。 安全の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春、秋に朝マラソンに取り組む。</li> <li>・ほぼ毎日二コニコカーで見守り活動をしたり、立ち番をしたり、見守りをする。（登校時、下校時）</li> <li>・長期休業明けには生活習慣点検週間を設ける。</li> </ul>		

小中一貫教育への取り組み	<p>「夢と希望のはぐくみプラットフォーム」を活用した学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜活用を利用して、6年生が久美浜中学校の体育祭見学、クラブ活動見学・体験をする。</li> <li>・本校6年生算数『立体の体積』の授業を通して町内の中学校の教員が汽水域の指導法について研修することができる、中学校へのつながりをスマーズにした。</li> </ul> <p>△小学校低・中学校年においても町内で同じ指導法について研修することが必要である。</p> <p>○△「家庭学習がんばり週間」を設定することができた。</p> <p>△「家庭学習がんばり週間」を設定するには、内容についてより充実感を持つまでは至らなかつた。改善が必要である。</p> <p>・中学校の定期テストと関連し「家庭学習がんばり週間」を設定する。</p>	<p>○クラブ活動見学・体験をして、中学校生活への見通しを持つことが出来た。</p> <p>○町内の小・中学校の教員が汽水域の指導法について研修することができる、中学校へのつながりをスマーズにした。</p> <p>△小学校低・中学校年においても町内で同じ指導法について研修することが必要である。</p> <p>○△「家庭学習がんばり週間」を設定することができた。</p> <p>△「家庭学習がんばり週間」を設定するには、内容についてより充実感を持つまでは至らなかつた。改善が必要である。</p> <p>○毎月一回のサポート会で、情報交流、分析をして手立てを考えることで、全教職員が同じ方向性で個に応じた指導に努めることができた。</p> <p>△受容することと、ルールを教えること・社会化させることとバランスを取りながら指導をすることについて実践を通しながら学び続ける必要がある。</p> <p>・より専門性の高い機関と連携をとりながら、校内研修を実施したり、本校児童の見立てをしたりしてもらい、個の指導に活かす。</p> <p>・各学年地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。</p> <p>○地域学習を進め「ふるさと」(旧湊小校区、旧田村小校区、旧神野小校区)について、体験学習や調べ学習などにより学ばせることができた。</p> <p>△地域とのつながりについて、整理する部分と開拓する部分を作る。</p> <p>○ホームページを活用して情報発信に努める。</p> <p>○ホームページアクセス数を増やすことができた。 4月10日 14:037 → 3月 5日 39868 より安定した更新を目指したい。</p> <p>○小中一貫教育を自校の課題解決、活性化のために利用すること。</p> <p>○中学校区の目標達成に向けて本校のチーム力の一層高める。夢と希望を持たせる。(久美浜中学 69%→90%)</p> <p>○他校の教職員や地域人材を積極的に活用し、自校の教育内容を高める。</p>
特別支援教育	<p>校内サポート体制の確立を図り、個の指導に活かす。</p>	<p>・サポート会(低、中、高)を毎月1回持ち、情報交流、分析をして手立てを考える。</p> <p>・より専門性の高い機関と連携をとりながら、校内研修を実施したり、本校児童の見立てをしたりしてもらい、個の指導に活かす。</p>
特色ある学校づくり	<p>開校2年目。かぶと山小学校の人・自然・文化などについて学び、まとめ、情報発信する。</p>	<p>・各学年地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。</p> <p>○ホームページを活用して情報発信に努める。</p> <p>○ホームページアクセス数を増やすことができた。 4月10日 14:037 → 3月 5日 39868 より安定した更新を目指したい。</p>
次年度に向けた改善の方向性		